

# HP OpenView AssetCenter

ソフトウェアバージョン : 5.00

---

## インストールとアップグレード

ビルド番号 : 464



## 法的制限事項

### 保証

HP製品およびサービスに対する保証は、当該製品またはサービスに付帯する明示的保証条項でのみ規定されます。

本規定のいかなる部分も、他の保証を構成すると解釈されるものではありません。

HPは本書の技術上または編集上の誤謬、欠落についての責任を負わないものとします。

本書に含まれる内容は、予告なく変更される場合があります。

### 限定保証条項

機密コンピュータソフトウェア。

保有、使用、コピーを行うには、HPによる有効なライセンスが必要です。

FAR12.211および12.212準拠。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアマニュアル、技術データは、ベンダの標準商用ライセンスに基づき、米国政府にライセンス供与されています。

### 著作権

(c) Copyright 1994-2006 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

### 商標

- Adobe®, Adobe Photoshop® and Acrobat® are trademarks of Adobe Systems Incorporated.
- Corel® and Corel logo® are trademarks or registered trademarks of Corel Corporation or Corel Corporation Limited.
- Java™ is a US trademark of Sun Microsystems, Inc.
- Linux is a U.S. registered trademark of Linus Torvalds
- Microsoft®, Windows®, Windows NT® and Windows® XP are U.S. registered trademarks of Microsoft Corporation.
- Oracle® is a registered US trademark of Oracle Corporation, Redwood City, California.
- UNIX® is a registered trademark of The Open Group.

# 目次

はじめに . . . . .	9
本マニュアルの対象ユーザ . . . . .	9
本マニュアルの使用目的 . . . . .	9
AssetCenterデータの保全性に関する注意 . . . . .	10
<b>1. AssetCenterのコンポーネント . . . . .</b>	<b>13</b>
<b>2. サポートされる動作環境 . . . . .</b>	<b>15</b>
サポートされるオペレーティングシステム . . . . .	15
Windowsでの必要最小限の動作環境 . . . . .	16
Windowsで推奨される動作環境 . . . . .	16
サポートされるDBMS . . . . .	17
<b>3. 旧バージョンをアップグレードする . . . . .</b>	<b>19</b>
AssetCenter 4.2.x、4.3.x、または4.4.xのアップグレード - 概要 . . . . .	19
アップグレード操作の詳細例 . . . . .	22
<b>4. Windowsでのインストールとアンインストール (AssetCenter Webを除く) . . . . .</b>	<b>37</b>
AssetCenterインストール前の注意事項 . . . . .	37
手動インストール (GUI) . . . . .	40

手動アンインストール (GUI) . . . . .	41
自動インストールとアンインストール (コマンドライン) . . . . .	42
<b>5. Windowsでの設定 (AssetCenter Webを除く) . . .</b>	<b>49</b>
DB2データベース用のCコンパイラ . . . . .	49
Oracle DLL . . . . .	50
メッセージシステム . . . . .	51
AssetCenter Server . . . . .	52
Crystal Reports . . . . .	54
Connect-Itを統合する . . . . .	54
リモートコンピュータのスキャン . . . . .	55
Get-Answers . . . . .	55
デモ用データベース . . . . .	55
<b>6. .iniおよび.cfgファイル . . . . .</b>	<b>57</b>
使用可能な.iniおよび.cfgファイル . . . . .	57
「.ini」ファイルを変更する . . . . .	59
<b>7.AssetCenterWebのインストール、設定、アンインストール . . . . .</b>	<b>65</b>
AssetCenter Webアーキテクチャ . . . . .	65
実用例 . . . . .	67
AssetCenter Webのインストール . . . . .	71
Internet Explorerを使ったAssetCenterへのアクセス . . . . .	90
AssetCenter Webの最適化 . . . . .	91
AssetCenter Webのアンインストール . . . . .	93
<b>8. パフォーマンスの問題 . . . . .</b>	<b>95</b>
<b>インデックス . . . . .</b>	<b>97</b>

---

## 図の一覧表

3.1. 4.2.x、4.3.x、4.4.xデータベースのアップグレード - 概要 . . . . .	22
7.1. AssetCenter Webアーキテクチャ . . . . .	66



# 表の一覧表

3.1. AssetCenterバージョン番号別のアップグレードタイプ . . . . .	19
4.1. MSDE - インストールされたMSDEインスタンスに対するインストール設定 . . . . .	39
6.1. .iniおよび.cfgファイル - 主なファイルの一覧 . . . . .	57
6.2. .iniおよび.cfgファイル - 主なファイルの場所 . . . . .	58
6.3. [ OPTION ] セクション . . . . .	60
6.4. [ SQL ] セクション . . . . .	61
6.5. [ OPTION ] セクション . . . . .	61
6.6. [ OPTION ] セクション . . . . .	62
6.7. 「amdb.ini」ファイルのエントリ . . . . .	62



---

# はじめに

---

## 本マニュアルの対象ユーザ

本書はAssetCenter 5.00を使用するすべての企業を対象に書かれています。  
本書は特に以下のことを実行するエンジニアを対象としています。

- AssetCenterとAssetCenter Webをはじめてインストールする
- 旧バージョンのAssetCenterをアップグレードする

---

## 本マニュアルの使用目的

このマニュアルの内容は以下のとおりです。

- AssetCenterを構成するプログラム
- AssetCenterの動作環境
- 旧バージョンのAssetCenterのアップグレード方法
- AssetCenterとAssetCenter Webをはじめてインストールする方法
- AssetCenterの設定方法
- AssetCenterの性能の最適化

---

### 重要項目:

本書で説明されている手順には忠実に従ってください。

---

CD-ROMを挿入すると表示される画面で、インストールするコンポーネントを選択します。

本書では、次のプログラムのインストール方法のみが説明されています。

- AssetCenterのインストール
- Microsoft MSDEのインストール

他のプログラムのインストール方法については、各プログラムの付属マニュアルを参照してください。

---

## AssetCenterデータの保全性に関する注意

AssetCenterは多彩な機能を搭載しています。この多機能は、複雑な構造のデータベースを使用することにより実現されています。

- データベースは大量のテーブル、フィールド、リンク、およびインデックスで構成されます。
- 一部の中間テーブルは、グラフィカルインタフェースには表示されません。
- 一部のリンク、フィールドとインデックスは、ソフトウェアにより自動的に作成、削除または変更されます。
- ユーザはテーブル、フィールド、リンクやインデックスを追加作成することができます。

データベースの保全性を保護しつつその内容を変更する場合、以下のアプリケーションの内の1つを使用する必要があります。

- Windowsクライアント
- AssetCenter API
- AssetCenter Import
- Webクライアント
- HP OpenViewゲートウェイ
- Connect-It
- AssetCenter Server
- AssetCenter Web Service

データベースの保全性を保護しつつその構造を変更する場合、AssetCenter Database Administratorを使用する必要があります。

---

 **警告:**

データベースの内容や構造を、ソフトウェア用にあらかじめ用意された方法以外の手段で変更してはなりません。不適切な方法で変更すると、データベースが破損し、以下の問題が発生する可能性があります。

- データやリンクが勝手に削除または変更される
  - 架空のリンクやレコードが作成される
  - 重大なエラーメッセージが発生する
-



# 1 AssetCenterのコンポーネント

## AssetCenterのパッケージ

プログラム名	プログラムの インタフェース	Windowsのサポート
AssetCenterデータベースへのアクセス用Windowsインタフェース（下記注意を参照）	グラフィック	可
AssetCenterデータベースへのアクセス用Webインタフェース（注意を参照）	グラフィック	はい
AssetCenter Export	グラフィック コマンドライン	可 可
AssetCenter Import	コマンドライン	可
AssetCenter Server	グラフィック コマンドライン	可 不可
AssetCenter Database Administrator	グラフィック コマンドライン	可 可
AssetCenter API	非グラフィック	可
AssetCenter Web Service	非グラフィック	はい

プログラム名	プログラムの インタフェ ース	Windowsのサポート
AssetCenter Script Analyzer	グラフィック	可

 **注意:**

AssetCenterデータベースへのWindowsおよびWebインタフェースからは次のモジュールにアクセスできます。

- ポートフォリオ
- 契約
- ソフトウェアライセンス
- ソフトウェアの配布
- ファイナンス
- 経費付替え
- 調達
- ケーブル
- バーコードによる棚卸
- 管理
- 照合更新

モジュールへのアクセスの可否は、AssetCenter付属のライセンスファイル「license.cfg」の内容に応じて異なります。

### 周辺プログラム

以下のソフトウェアはAssetCenterに統合可能です。

- Connect-It
- Crystal Reports
- Enterprise Discovery
- Get-Answers
- Get-Resources

## 2 サポートされる動作環境

---

### サポートされるオペレーティングシステム

#### AssetCenterクライアントプログラム

AssetCenterクライアントプログラムは次のオペレーティングシステムをサポートします。

- Windows

サポートされているオペレーティングシステムのバージョンについては、互換性一覧 ([www.hp.com/managementsoftware/peregrine\\_support](http://www.hp.com/managementsoftware/peregrine_support)) を参照してください。

#### AssetCenterデータベースサーバ

サーバは、DBMSにサポートされている全オペレーティングシステムとハードウェアプラットフォーム上で機能します。

DBMSにサポートされているオペレーティングシステムとハードウェアプラットフォームのリストは、DBMSのマニュアルを参照してください。

## Windowsでの必要最小限の動作環境

### AssetCenter Server以外の全プログラム

環境	Windows 95、98とME	Windows NT 4、2000とXP
CPU	Pentium II 300	Pentium II 400
RAM	32 MB	256 MB
ディスク空き容量 (*)	1 GB (全パッケージをインストール)	1 GB (全パッケージをインストール)

(\*) AssetCenterにインストールされるファイル用に約350MBのディスク容量が必要です (本番データベースとクライアントデータベースのレイヤを除く)。

### AssetCenter Server

環境	Windows NT 4、2000、XP Professional Edition
CPU	Pentium III 500
RAM	AssetCenter Server用に256 MB
ディスク空き容量	500 MB

## Windowsで推奨される動作環境

### AssetCenter Server以外の全プログラム

環境	Windows 95、98とME	Windows 2000、XPとServer 2003
CPU	Pentium II 400	Pentium III 500
RAM	96 MB	512 MB
ディスク空き容量 (*)	2 GB (全パッケージをインストール)	2 GB (全パッケージをインストール)

(\*) AssetCenterと共にインストールされるファイル (クライアントのみ) で必要とするディスク容量は約350MBです (本番データベースとデータベース層を除く)。

### AssetCenter Server

環境	Windows NT 4、2000とXP Professional Edition
CPU	Pentium III 1 GHz
RAM	AssetCenter Server用に1 GB

環境	Windows NT 4、2000とXP Professional Edition
ディスク空き容量	1 GB
ネットワーク	DBMSサーバとの高速リンク（例：Ethernet 100 Mbps、Gigabit）と最短待ち時間（<5 ms）

---

## サポートされるDBMS

AssetCenterデータベースでは、以下のDBMSがサポートされています。

- Microsoft SQL Server



**注意:**

MSDEバージョンもサポートされますが、デモ用データベースの使用に限られます。

- 
- Oracle Database Server
  - Sybase Adaptive Server
  - IBM DB2 UDB

サポートされているDBMSバージョンについては（サーバ、クライアント、ネットワークプロトコルなど）[互換性一覧](#)

（[www.hp.com/managementsoftware/peregrine\\_support](http://www.hp.com/managementsoftware/peregrine_support)）を参照してください。



**警告:**

動作環境の表に記載されているバージョンまたはサービスパック以外（以降も含む）のDBMSでAssetCenterを使用すると、正常に機能しない場合があります。



**警告:**

それぞれのベンダがサポートしなくなったバージョンまたはサービスパックでAssetCenterを使用すると、正常に機能しない場合があります。

---



## 3 旧バージョンをアップグレードする

アップグレードタイプは、インストール済みのバージョンによって異なります。

表 3.1. AssetCenterバージョン番号別のアップグレードタイプ

アップグレードするバージョンの番号	実施する操作のタイプ	参考マニュアル
バージョン4.2.x、4.3.x、または4.4.x	標準的な状況では、簡易アップグレードで十分です。 簡易アップグレードが失敗した場合は、簡略マイグレーションを実施する必要があります。	本章 『マイグレーション』ガイド
バージョン4.1.x以前	完全マイグレーション	『マイグレーション』ガイド

### AssetCenter 4.2.x、4.3.x、または4.4.xのアップグレード - 概要

#### アップグレードの理由

- 標準データベース構造（テーブル、フィールド、リンク、およびインデックス）が変更されました。

- 新しい機能が追加されました。

## アップグレード手順の構成

アップグレードが必要になるのは、以下です。

- 旧フォーマット本番データベースから5.00フォーマットのデータベースに
- AssetCenterプログラムをバージョン5.00に

## 必須要素

アップグレード手順は比較的簡単であり、以下のことが必要です。

- AssetCenterの知識（インストール、管理）
- 準備
- 技術的能力：データベース管理
- メソッド

## アップグレード手順

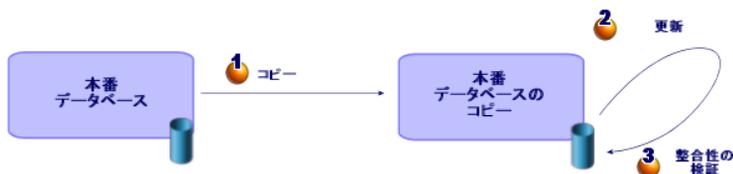
- 1 アップグレード対象コンピュータを準備します。
  - ▶アップグレード対象コンピュータを準備する [ 献 23]
- 2 旧フォーマットの本番データベースを準備します。
  - 1 旧フォーマットの本番データベースの健全性を検証します（オプション）。
    - ▶旧フォーマットの本番データベースの整合性を検証する [ 献 24]
  - 2 必要に応じて、旧フォーマットの本番データベースに調整を加えます。
    - ▶旧フォーマットの本番データベースを手動により調整する [ 献 25]
- 3 旧フォーマットの本番データベースのコピーに対して、アップグレードをテストします。
  - 1 旧フォーマットの本番データベースをコピーします（）。
    - ▶旧フォーマットの本番データベースをコピーする [ 献 26]旧フォーマットの本番データベースのコピーに対してアップグレードをテストしているときに、ユーザは旧フォーマットの本番データベースの使用を続行することができます。
  - 2 旧フォーマットの本番データベースのコピーをアップグレードします（）。
    - ▶旧フォーマットの本番データベースのコピーをアップグレードする [ 献 27]アップグレードプログラムにエラーメッセージが表示されない場合は、本章に記載されているようにアップグレードを続行できます。

アップグレードプログラムにエラーメッセージが表示される場合は、『マイグレーション』ガイドに記載されているように簡略マイグレーション手順を実施する必要があります。

この場合、本章に記載されるアップグレード手順は適用できません。

- 3 5.00フォーマットの本番データベースの整合性を検証します (🟡)。
    - ▶ 5.00フォーマットの本番データベースの整合性を検証する [ 献 28 ]プログラムで問題が発生した場合は、必要に応じて旧フォーマットの本番データベースに修正を加えて、最新バージョンの旧フォーマットの本番データベースのコピーに対してテストを再開します。  
エラーメッセージがない場合は、次のステップに進みます。
  - 4 新しい旧フォーマットの本番データベースのコピーを使用して最終アップグレードを実施します。
    - 1 旧フォーマットの本番データベースをブロックします。
      - ▶ 旧フォーマットの本番データベースをブロックする [ 献 29 ]
    - 2 旧フォーマットの本番データベースのコピーを作成します (🟡)。
      - ▶ 旧フォーマットの本番データベースをコピーする [ 献 26 ]
    - 3 旧フォーマットの本番データベースのコピーをアップグレードします (🟡)。
      - ▶ 旧フォーマットの本番データベースのコピーをアップグレードする [ 献 27 ]
    - 4 5.00フォーマットの本番データベースのコピーについて整合性を検証します (🟡)。
      - ▶ 5.00フォーマットの本番データベースの整合性を検証する [ 献 28 ]
    - 5 必要に応じて、5.00フォーマットの本番データベースのコピーを最終処理するために調整を加えます。
      - ▶ 5.00フォーマットの本番データベースのコピーの最終処理 [ 献 29 ]
  - 5 AssetCenterプログラムをアップグレードします。
    - ▶ AssetCenterプログラムを更新する [ 献 31 ]
  - 6 必要に応じて、AssetCenterデータベースにアクセスする外部プログラムのアップグレードを実施します。
    - ▶ AssetCenterデータベースにアクセスする外部プログラムをアップグレードする [ 献 33 ]
  - 7 5.00フォーマットの本番データベースで、AssetCenter Serverを開始します。
  - 8 5.00フォーマットの本番データベースにアクセスする外部プログラムを再起動します。
  - 9 データベースが使用可能であることをユーザに通知します。
- 4.2.x、4.3.x、4.4.xデータベースをアップグレードする主な手順は次の通りです。

## 図 3.1.4.2.x、4.3.x、4.4.xデータベースのアップグレード - 概要



---

### アップグレード操作の詳細例

ここでは、上記の概要に記載したステップを詳細に説明します。

---

#### 警告:

お客様の環境に適した操作のみを行ってください。

---

## アップグレード対象コンピュータを準備する

旧フォーマットの本番データベースをアップグレードする前に、適切なアップグレード対象コンピュータを準備する必要があります。

本章では、アップグレード対象コンピュータにインストールする必要があるものをすべて説明します。

旧フォーマットの本番データベースに対応するバージョンの**AssetCenter**をインストールする

これは、以下の旧フォーマットの本番データベースへアクセスするために必要になります。

- 本番データベース
- 本番データベースのコピー

少なくとも基本モジュールをインストールします。

旧フォーマットの本番データベースにアクセスできることを確認する

以下の操作を行うために、データベースへのアクセス権限が必要です。

- アップグレード用に旧フォーマットの本番データベースを準備します。
- シミュレート用に旧フォーマットの本番データベースのコピーを作成し、アップグレードを実施します。

**AssetCenter 5.00**をインストールする

少なくとも以下のコンポーネントをインストールします。

- AssetCenterクライアント
- AssetCenter Database Administrator
- マニュアル
- マイグレーション
- データキット
- AssetCenter Export

変換速度を左右する要素

- DBMSの性能
- AssetCenter Database Administratorのコンピュータと、旧フォーマットデータベースのコンピュータ間のデータ転送速度
- AssetCenter Database Administratorと、旧フォーマットデータベースがインストールされているコンピュータの性能（上記の要素ほど大切ではありません）

---

### ヒント:

旧フォーマットの本番データベースのサイズが大きい場合、AssetCenter Database Administratorがインストールされているコンピュータと、旧フォーマットのデータベースをできる限り近づけなければなりません（例えばWANを経由しない、など）。特に長いフィールドやバイナリデータを含むテーブルでは注意が必要です（例：**amComment**、**amImage**）。

---

## 旧フォーマットの本番データベースの整合性を検証する

---

1

### 重要項目:

旧フォーマットの本番データベースのバックアップコピーを作成します。

- まず第一に旧バージョンのAssetCenter Database Administratorを使って、整合性を検証します。
    - 旧バージョンのAssetCenter Database Administratorを起動します。
    - 旧フォーマットの本番データベースに接続します（ [ ファイル / 開く ] メニューから [ 既存のデータベースを開く ] オプション）。
    - データベースの診断画面を表示します（ [ アクション / データベースの診断 / 修復 ] メニュー）。
    - テーブルのリストで [ (すべてのテーブル) ] を選択します。
    - ログファイルの名前とパスを指定します。
    - [ レコードの整合性のチェック ] オプションのみを選択します。
    - [ 修復 ] オプションを選択します。
    - [ 実行 ] をクリックします。
    - 実行画面のメッセージを確認します。
    - 必要に応じて、ログファイルの内容を確認します。
- 

3

### 警告:

旧フォーマットの本番データベースのDBMSがDB2である場合、以下の検証作業を行う必要はありません。

2番目の検証を5.00フォーマットのAssetCenter Database Administratorに実施します。

- AssetCenter Database Administrator 5.00を起動します。
- 旧フォーマットの本番データベースに接続します（ [ ファイル / 開く ] メニューから [ 既存のデータベースを開く ] オプション）。



#### 注意:

AssetCenter Database Administrator 5.00を使用して旧フォーマットのデータベースに接続することは、まったく問題ありません。

- 3 データベースの診断画面を表示します（ [アクション/データベースの診断/修復] メニュー ）。
- 4 テーブルのリストで [ (すべてのテーブル) ] を選択します。
- 5 ログファイルの名前とパスを指定します。
- 6 [レコードの整合性のチェック] オプションを除くすべての検証オプションを選択します。
- 7 [修復] オプションを選択します。
- 8 [実行] をクリックします。
- 9 実行画面のメッセージを確認します。
- 10 必要に応じて、ログファイルの内容を確認します。

解析/修復プログラムの詳細については、マニュアル『管理』の「データベースの診断/修復」の章を参照してください。

## 旧フォーマットの本番データベースを手動により調整する

旧フォーマットの本番データベースのアップグレードを正確に実施するために、最初に特定データ項目を変更する必要があります。

### [ amCounter ] テーブルを更新する

本節の内容は、 [ amCounter ] テーブルを管理する up\_GetCounterVal ストアドプロシージャを、以下のテクノートの指示に従って変更したユーザを対象としています。

- Microsoft SQL Server : TN317171736
- Sybase Adaptive Server : TN941931
- Oracle Database Server : TN12516652

上記のテクノートの指示通りに変更を実行した場合、 up\_GetCounterVal ストアドプロシージャは、 [ amCounter ] テーブルの一部のレコードを更新できなくなります。

旧フォーマットの本番データベースをアップグレードする前に、まず次のことを行います。

- 1 アップグレード後に同じように up\_GetCounterVal ストアドプロシージャを変更したい場合は、そのコピーを作成します。
- 2 [ amCounter ] テーブルから別のテーブルへ派生されたカウンタを手動で変更します。
- 3 up\_GetCounterVal ストアドプロシージャを、初期状態に戻します。

## 調達モジュールとワークフローモジュール

アップグレード前に実行中のプロセス（部分的に受領した発注、返却予定資産、現在のワークフローなど）の数を減らすことをお勧めします。

---

### 警告:

また、アップグレード後に問題が発生した場合に参照できるように、旧フォーマットの本番データベースのバックアップコピーを作成することをお勧めします。

---

## 旧フォーマットの本番データベースをコピーする

### 従来のコピーの問題点

DBMSのツールを使って旧フォーマットの本番データベースをコピーする場合、AssetCenter Database Administrator以外のツールで実行された以下の要素の追加、変更または削除もコピーされるため、旧フォーマットの本番データベースのコピーは元のデータベースと同一になります。

- インデックス
- トリガ
- ストアドプロシージャ
- ビュー

これらの構造の変更は、アップグレードプログラムで対応することができません。

このため旧フォーマットの本番データベースの変換前に、構造の変更事項を取り消す必要があります。

ここで述べるように、DBMSツールを使用してコピーを作成し、構造の変更を取り消すことをお勧めします。

---

### 注意:

旧フォーマットの本番データベースのコピーは、アップグレード対象コンピュータからアクセスできる必要があります。

データベースのコピーの作成方法については、DBMSの付属マニュアルを参照してください。

---

### DBMSツールによる旧フォーマットの本番データベースのコピー

- 1 DBMSツールで旧フォーマットの本番データベースをコピーします。  
作成されたコピーは、元の旧フォーマットの本番データベースと全く同一です。

- 2 以下の要素に実行された全変更事項を取り消します。
  - インデックス
  - トリガ
  - ストアドプロシージャ
  - ビュー
- 3 旧フォーマットのシミュレーション用データベースへのAssetCenterの接続を作成します。

## 旧フォーマットの本番データベースのコピーをアップグレードする

次の手順で、旧フォーマットの本番データベースのコピーをアップグレードします。

- 1 AssetCenter Database Administratorバージョン5.00を起動します。
- 2 Adminログインで旧フォーマットのデータベースのコピーに接続します（ [ファイル / 開く / 既存のデータベースを開く ] ）。

---

### 重要項目:

AssetCenterの接続の詳細画面では、以下の点に注意します。

- [所有者] フィールドに値を入力してはなりません。
  - [ユーザ] フィールドは、データベーステーブルの所有者であるユーザ（すべてのデータベースオブジェクト作成権限があるユーザ）を参照しなければなりません。
  - Microsoft SQL Serverでは、テーブルの所有者がdboである場合、接続ログインは、dbo.<テーブル>の形でデフォルトのテーブルを作成しなければなりません（特にログインsaの場合）。
- 
- 3 [マイグレーション / データベースを更新] を選択します。

---

 **注意:**

旧フォーマットの本番データベースがマルチリンガルである場合 (▶ 『管理』ガイド、「AssetCenterデータベースの作成、変更、削除」の章、「AssetCenterクライアント言語」の節)、ウィザードのいずれかのページによって旧フォーマットの本番データベースの追加言語に加えられたカスタマイズを継承させることができます。これには、AssetCenterバージョン5.00が各追加言語バージョンで使用可能であり、変換に使用するコンピュータにこれらの言語のAssetCenterをインストールする必要があります。

フィールドおよびリンクの状況依存ヘルプを除いて、すべてのマルチリンガル要素がカスタマイズを継承します。

言語Xへのカスタマイズを自動的に継承するには、この言語に対してAssetCenterが使用可能になる必要があります。

既に使用可能になっている言語でアップグレードを実行することもできますが、言語Xに対するカスタマイズを伝達することはできません。その言語に対してAssetCenter 5.00が使用可能になったときに、言語Xを5.00フォーマットの本番データベースに挿入します。旧フォーマットの本番データベースに行ったカスタマイズは、手動で伝達する必要があります。

---

4 ウィザードの指示に従います。

 **ヒント:**

[入力タイプ]パラメータが[コメント]であるリンクをアップグレードするには、相当時間がかかります (大規模データベースの場合で数時間が必要です)。

この段階でメッセージが表示されないため、アップグレードプロセスが実行中であるかどうか疑問に思うかもしれません。

これを確認するには、アップグレード対象コンピュータまたはデータベースサーバのシステムアクティビティ (CPUまたはI/Oレベル) を調査します。

---

5 変換ログファイル「sdu.log」を参照します。

## 5.00フォーマットの本番データベースの整合性を検証する

- 1 AssetCenter Database Administrator 5.00を起動します。
- 2 5.00フォーマットの本番データベースのコピーに接続します ([ファイル/開く]、[既存のデータベースを開く]オプション)。
- 3 データベースの診断画面を表示します ([アクション/データベースの診断/修復]メニュー)。
- 4 テーブルのリストで [(すべてのテーブル)] を選択します。
- 5 ログファイルの名前とパスを指定します。

- 6 [レコードの整合性のチェック] オプションを除くすべての検証オプションを選択します。
  - 7 [解析のみ] オプションを選択します。
  - 8 [実行] をクリックします。
  - 9 実行画面のメッセージを確認します。
  - 10 必要に応じて、ログファイルの内容を確認します。
- 分析/修復プログラムの詳細については、マニュアル『管理』の「データベースの診断/修復」の章を参照してください。

## 旧フォーマットの本番データベースをブロックする

「旧フォーマットの本番データベースをブロックする」とは、アップグレードの最中に変更が加えられないために旧フォーマットの本番データベースを使用できないようにすることです（この場合、変更については考慮されません）。

以下の操作を行います。

- 1 すべてのユーザの旧フォーマットの本番データベースへの接続を解除します。
- 2 以下のプログラムを終了します。
  - AssetCenter Server
  - AssetCenter API
  - 旧フォーマットの本番データベースにアクセスする外部プログラム
- 3 旧フォーマットの本番データベースへのアクセスをブロックします。

## 5.00フォーマットの本番データベースのコピーの最終処理

### アップグレード正常終了の確認

アップグレード処理が正常に行われたことを確認することをお勧めします。

確認するには以下の方法があります。

- 5.00フォーマットのデータベースのコピーに目を通して、明らかにおかしい点がないか探します。
- いくつかのテーブルのレコード数をアップグレード前後で比較します。

### ストアドプロシージャup\_GetCounterValの変更

本節の内容は、旧フォーマットの本番データベースでup\_GetCounterValストアドプロシージャを変更したユーザを対象としています。

旧フォーマットの本番データベースをアップグレードする前に、次の作業を実行します。

- 1 [amCounter] テーブルから別のテーブルへ派生されたカウンタを手動で変更します。
- 2 up\_GetCounterValストアドプロシージャを、初期状態に戻します。

以下のテクノートの指示に従って、up\_GetCounterValストアプロシージャを新規に調整します。

- Microsoft SQL Server : TN317171736
- Sybase Adaptive Server : TN941931
- Oracle Database Server : TN12516652

## フィールドのヘルプ (オプション)

フィールド (とリンク) のヘルプは [ フィールドのヘルプ ] (SQL名 : amHelp) テーブルに格納されています。

アップグレード処理でこのテーブルの内容は変更されません。

フィールドのヘルプをアップグレードしたい場合は、『マイグレーション』ガイドの「段階を追ってマイグレーションを実行する - 最終変換 (マイグレーションデータベース)」の章、「手順20 - 5.00フォーマットのマイグレーションデータベースを最終確認する」の節、「すべてのバージョンの旧フォーマットの本番データベースに関する最終確認」、「フィールドのヘルプ」を参照してください。

## AssetCenter 5.00付属の標準レポートをインポートする

[ サンプルデータ ] に含まれるレポートを、5.00フォーマットの本番データベースのコピーにインポートするには、

- 1 AssetCenter Database Administratorを起動します。
- 2 [ ファイル / 開く ] を選択します。
- 3 [ データベース記述ファイルを開く (新規データベースの作成) ] オプションを選択します。
- 4 AssetCenter 5.00のインストール先フォルダの「config」サブフォルダの「標準 5.00 gbbase.xml」ファイルを選択します。
- 5 [ アクション / データベースの作成 ] を選択します。
- 6 次のようにウィザードのページに入力します (ウィザードページを [ 次へ ] と [ 戻る ] で移動します)。

[ SQLスクリプトの生成/データベースの作成 ] ページ :

フィールド	値
データベース	5.00フォーマットの本番データベースのコピーを選択します。
作成	専門分野データをインポートします。
高度な作成オプションを使用	このオプションは選択しません。

[ 作成パラメータ ] ページ :

フィールド	値
パスワード	管理者のパスワードを入力します。
	注意: AssetCenterデータベース管理者は、[名前] (Name) フィールドが「Admin」に設定されている [部署と従業員] (amEmplDept) テーブルのレコードです。 データベース接続ログインが [ユーザ名] (UserLogin) フィールドに保存されています。管理者名は「Admin」です。 パスワードが [パスワード] フィールド (LoginPassword) に保存されています。

[インポートするデータ] ページ:

フィールド	値
使用可能データ	[Crystal Reports] オプションを選択します。
エラー発生時にインポートを中止	このオプションは、問題が発生したときにインポートを中止する場合に選択します。
ログファイル	エラーや警告などすべてのインポート操作を記録するファイルの完全名。

7 ウィザードで定義されたオプションを実行します ([終了])。

#### ユーザ権限、アクセス制限、ユーザプロファイル

データベース構造が変更されたため、ユーザ権限、アクセス制限、およびユーザプロファイルに変更を加える必要があります。

新しいテーブルを既存のユーザ権限とユーザプロファイルに追加し、必要に応じて新しい権限と制限を作成します。

### AssetCenterプログラムを更新する

管理用コンピュータとクライアントコンピュータで、全てのAssetCenterプログラムを更新する必要があります。

AssetCenterと共に使用するプログラムのバージョンが、AssetCenter 5.00と互換性があるかどうか確認します。必要に応じて、これらのプログラムのアップグレードを実行します。

AssetCenterプログラムの一覧と、AssetCenterと共に使用するプログラムの一覧について: ▶ [AssetCenterのコンポーネント](#) [ 献 13]

AssetCenter 5.00と互換性のあるプログラムのバージョンについては、HPカスタマサポートサイトを参照してください。

---

 ヒント:

互換性については、このガイドの▶「Windowsでの設定 (AssetCenterWebを除く) [献 49]」の章も参照してください。

---

### AssetCenter Serverを管理用コンピュータにインストールする

AssetCenter Serverは、AssetCenterデータベースにおけるたくさんの自動処理タスクを実行します。Serverが起動されていない場合、AssetCenterは正しく作動しません。

このため、以下の操作を行う必要があります。

- 1 AssetCenter Serverを1台のクライアントコンピュータにインストールします。
- 2 AssetCenter Serverを適切に設定します。
- 3 AssetCenter Serverを常時稼動にします。

AssetCenter Serverの使用については、マニュアル『管理』の「AssetCenter Server」の章を参照してください。

### 5.00フォーマットの本番データベースのコピーにあるAssetCenterキャッシュを削除する

5.00フォーマットの本番データベースのコピーに接続するためにキャッシュを使用している場合は、削除することをお勧めします。

キャッシュに関する詳細は、マニュアル『はじめに』の「参考情報」の章、「接続」の「AssetCenterのパフォーマンス」の節を参照してください。

### AssetCenterプログラムを更新する

プログラムをアップグレードするには

- 1 前のバージョンのAssetCenterをアンインストールします。
- 

 ヒント:

AssetCenter 5.00を変換用コンピュータにインストールする場合、当面の間は以前のバージョンのAssetCenterをアンインストールしないようにしてください。

---

アンインストールの手順 (AssetCenterを削除するための保護対策、手順と方法) については、削除する対象のAssetCenterバージョンのマニュアル『インストールとアップグレード』を参照してください。

- 2 AssetCenter 5.00をインストールします。

インストール手順に関する情報 (注意事項、方法、AssetCenterインストールの各種方法) については、このガイドの他の章を参照してください。



### 注意:

AssetCenter 5.00インストールプログラムでは、AssetCenter 4.3.2以前のインストール済みバージョンが検索されません。

---

### AssetCenterが正常に起動することを確認する

AssetCenter5.00の起動時に問題が発生した場合は、ユーザサポートに連絡してください。

### 古い接続を削除して、新しい接続を作成する

この目的は、5.00フォーマットの本番データベースのコピーにユーザが確実に接続することです。

マニュアル『はじめに』の「参考情報」の章、「接続」の節を参照してください。

古い接続を変更することも可能です。

必要に応じて、接続用にAssetCenterキャッシュを作成します。

## AssetCenterデータベースにアクセスする外部プログラムをアップグレードする

### AssetCenter Web

AssetCenter Webを5.00バージョンに更新します。

AssetCenterWebの標準ページのみを使用していた場合は、この操作で十分です。これにより、AssetCenter Webの新規の標準ページを使えるようになります。

追加Webページを作成した場合、または標準Webページをカスタマイズした場合は、以下の手順に従います。

- 1 追加ページまたはカスタムページを保存します。
- 2 AssetCenter Webを5.00バージョンに更新します。
- 3 各Webページをテストし適応するように変換します。

### Get-It

Get-Itで開発されたWebアプリケーションがAssetCenter5.00データベースで機能するには、

- 1 お使いのバージョンのGet-ItがAssetCenter5.00互換性一覧（HPカスタマサポートWebサイト）にリストされていることを確認します。
- 2 必要に応じてGet-Itを更新します。
- 3 各カスタムWebページをテストし、適応するように変換します。

## Get-Resources

Get-ResourcesをAssetCenter 5.00データベースと連携させるには、

- 1 お使いのGet-ResourcesがAssetCenter 5.00互換性一覧（HPカスタマサポートWebサイト）にリストされていることを確認します。
- 2 必要に応じてGet-Resourcesを更新します。

Get-Resourcesの標準ページのみを使用していた場合は、この操作で十分です。これにより、Get-Resourcesの新規の標準ページを使用するようになります。

追加Webページを作成した場合、または標準Webページをカスタマイズした場合は、以下の手順に従います。

- 1 追加ページまたはカスタムページを保存します。
- 2 必要に応じてGet-Resourcesを更新します。
- 3 各カスタムWebページをテストし、適応するように変換します。

## Connect-Itのシナリオ

Connect-Itを使って5.00フォーマットのデータベースのコピーにアクセスするには、AssetCenter 5.00付属のConnect-Itのバージョンを使用しなければなりません。Connect-Itの既製シナリオを使用していた場合、移行後は新規の既製シナリオを使用します。

独自のシナリオを作成した場合は、

- 1 既製シナリオ以外の旧シナリオを保存します。
- 2 Connect-Itを更新します。
- 3 Connect-Itシナリオを1つずつ開きます。
- 4 各シナリオで、以下の操作を行います。
  - 1 Connect-Itのシナリオを開く際に警告メッセージが表示される場合は、メッセージを確認します。
  - 2 警告メッセージに応じてシナリオを訂正します。
  - 3 テスト用データを使ってシナリオを実行します。
  - 4 テスト中に問題が発生する場合は、問題点を訂正します。

## バージョン5.00システムデータをインポートする

- 1 AssetCenterを起動します。
- 2 ブロックされた旧フォーマットの本番データベースに接続します（[ファイル/データベースに接続]メニュー）。
- 3 [ファイル/インポート]メニューを選択してから、[スクリプトの実行]オプションを選択します。
- 4 スクリプトupgrade.lstを選択します（通常は、フォルダC:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00xx\migration\fromxxxにあります。ここで、xxxは旧フォーマットの本番データベースのバージョンです）。
- 5 [インポート]をクリックします。

- 6 [閉じる]をクリックします。
- 7 この操作によって取得するデータベースを5.00フォーマットの本番データベースと呼びます。



## 4 Windowsでのインストールとアンインストール（AssetCenter Webを除く）

本章ではAssetCenterを初めてインストールする方法を説明します。

---

### AssetCenterインストール前の注意事項

#### アンチウイルスプログラムをオフにする

AssetCenterのインストール中にアンチウイルスプログラムを起動していると、レジストリへのアクセスが遮断されるため、インストールプログラムが正常に機能しない場合があります。

このため、AssetCenterのインストール前にアンチウイルスプログラムを終了することをお勧めします。

#### Oracleクライアント層のインストール

Oracleクライアント層（SQL\*NetまたはNet 8）を不適切にインストールすると、アクセント記号のついた文字がAssetCenterでは適切に処理されない可能性があります。この問題は、例えばアクセント記号付きの文字を含むレコードの挿入時に発生します。このレコードを再選択すると、テキストは正常に表示されません。この問題を解決するには、SQL\*NetまたはNet 8の設定を確認してください。

## Crystal Reportsのインストールの有無

AssetCenterのインストールを実行する前に、Crystal Reportsランタイム（限定バージョン）をインストールする必要があるかどうか決定します。

8.5か9か10のフルバージョンがインストールされている場合、Crystal Reports 10ランタイムをインストールしないでください。

---

### 注意:

Crystal Reportsランタイムのインストールは、AssetCenterのインストールプログラムと共に実行されます。

---

## MSDEのインストールの有無

### MSDEの用途

MSDEは、Microsoft SQL Serverの限定かつフリーなバージョンです。

制限の例：

- SQL最適化ツールが提供されません。
- データベースへの同時接続数が制限されています。

AssetCenterではMSDEをデモ用データベースに使用します。

AssetCenterインストールCD-ROMを使用すると、必要に応じてMSDEをインストールできます。

---

### 注意:

制限があるため、MSDEは本番データベースとしてサポートされません。

---

### 非互換性

すでにMS SQL ServerがインストールされているパソコンにMSDEをインストールしないでください。

### MSDEのインストール

MSDEがユーザの環境に既にインストールされている場合、そのバージョンがサポートされていればデモ用データベースにMSDEからアクセスすることができます。

サポートされているDBMSのバージョン（サーバ、クライアント、ネットワークプロトコル、ドライバなど）については互換性一覧

（[www.hp.com/managementsoftware/peregrine\\_support](http://www.hp.com/managementsoftware/peregrine_support)）を参照してください。

AssetCenter付属のMSDEのインスタンスをインストールするには、

- 1 インストール用CD-ROMを挿入します。

- 2 CD-ROMを挿入してもインストールプログラムのウィンドウが自動的に表示されない場合は、
    - 1 Windowsエクスプローラを実行します。
    - 2 インストール用CD-ROMを選択します。
    - 3 CD-ROMのルートディレクトリを選択します。
    - 4 「autorun.exe」プログラムを実行します。
  - 3 オプション [ **Microsoft MSDEのインストール** ] を選択します。
  - 4 インストールプログラムの指示に従います。
- MSDEのインスタンスは、次のパラメータでインストールされます。

表 4.1. MSDE - インストールされたMSDEインスタンスに対するインストール設定

パラメータ	値
インスタンスの名前	ASSETCENTER
管理権限を持つユーザ	sa
ユーザsaに関連付けられているパスワード	saacpassword
セキュリティシステム	SQL
ネットワークプロトコル	有効

## MSDEサービスを開始する

デモ用データベースをインストールする予定であれば、AssetCenterのインストールを開始する前に、使用するMSDE Windowsサービスを開始できることを確認します。

AssetCenter付属のMSDEサービスはMSSQL\$ASSETCENTERという名前です。

インストールプログラムからは開始されません。

ただし、次回Windowsを再起動したときに自動的に起動するように設定されます。

### 注意:

MSDEサービスに相当するサービスをWindows 98で開始する場合は、AssetCenterのインストール後にコンピュータを再起動します。

## Windows 2000、XP、Server 2003へのインストール

Windowsの2000かXPかServer 2003を使用している場合、コンピュータにソフトウェアをインストールするには管理者権限が必要になります。管理者権限でログインしないと、インストールプログラムはレジストリを変更できません。

## クライアント/サーバ型インストール

- 1 DBMSをサーバとクライアントコンピュータにインストールします。
- 2 クライアントとサーバ間の通信をテストします。
- 3 各クライアントコンピュータにAssetCenterをインストールします。

## クライアントコンピュータへ迅速にインストールする

「amdb.ini」ファイルには、[ ファイル/接続の管理 ] メニューにある接続のリストが含まれています。

このファイルの場所：▶ .iniおよび.cfgファイル [ 献 57]

これらのオプションを各クライアントコンピュータのGUIで定義する代わりに、一台のマシンでオプションを定義した後「amdb.ini」ファイルを各クライアントコンピュータにコピーします。

## 複数言語でのAssetCenterのインストール

AssetCenterWindowsクライアントは、同一のコンピュータに複数の言語でインストールすることができます。

これを行う場合は、言語バージョンごとに別々のフォルダにインストールする必要があります。

デフォルトでは、インストールバージョンは言語バージョンに関わらず同一のインストールフォルダを使用します。

---

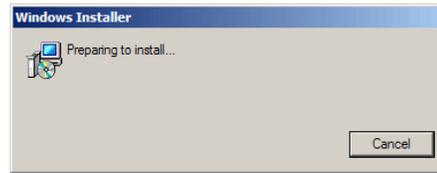
## 手動インストール ( GUI )

- 1 インストール用CD-ROMを挿入します。
- 2 CD-ROMを挿入してもインストールプログラムのウィンドウが自動的に表示されない場合は、
  - 1 Windowsエクスプローラを実行します。
  - 2 インストール用CD-ROMを選択します。
  - 3 CD-ROMのルートディレクトリを選択します。
  - 4 「autorun.exe」プログラムを実行します。
- 3 オプション [ **AssetCenter 5.00**のインストール ] を選択します。
- 4 インストールプログラムの指示に従います。



### 警告:

インストール時に、次の種類のポップアップウィンドウが数回表示されます。



これは正常です。

[キャンセル]をクリックしないでください。

キーボードの [Enter] を押しただけで [キャンセル] ボタンが選択されるので、インストールの実行中には他のアプリケーションを操作しないことをお勧めします。ポップアップウィンドウが表示されたことに気付かずに [Enter] を押すこととなります。

---

## 手動アンインストール (GUI)

### AssetCenterをアンインストールする前に

#### デモ用データベースをインストールした場合

デモ用データベースは、アンインストール時に削除されます。

デモ用データベースを残しておきたい場合は、コピーを作成しておく必要があります。

▶ デモ用データベースのコピーの作成方法については、MSDEのドキュメントを参照してください。

#### Webクライアントをインストールした場合

AssetCenterをアンインストールする前に、アンインストールの対象となるファイルをアンロックするために、AssetCenter Web TierとAssetCenter Web Serviceが使用しているアプリケーションサーバを停止する必要があります。

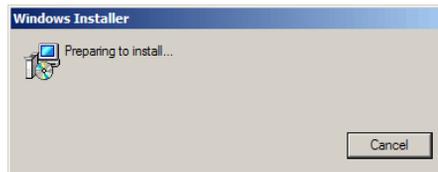
### AssetCenterをアンインストールする

AssetCenterをマシンから完全に削除するには、Windowsコントロールパネルの [プログラムの追加と削除] を使用します。

---

 **警告:**

アンインストール時に、次のようなポップアップウィンドウが数回表示されま  
す。



これは正常です。

[キャンセル] をクリックしないでください。

キーボードの [Enter] を押しただけで [キャンセル] ボタンが選択されるので、  
アンインストールの実行中には他のアプリケーションを操作しないことをお勧め  
します。ポップアップウィンドウが表示されたことに気付かずに [Enter] を押  
すこととなります。

---

アンインストールプログラムは以下の操作を実行します。

- インストールされた全ファイルとプログラムグループを削除します。
- AssetCenterのインストールプログラムが加えた変更事項を、設定ファイルか  
ら削除します。
- レジストリを更新します。

---

## 自動インストールとアンインストール (コマンドライン)

AssetCenterをグラフィカルインタフェースを使用せずにインストールすることも  
可能です。

- 概要 [ 献 42]
- 準備 [ 献 43]
- 実行 [ 献 45]
- コマンドラインからアンインストールを実行する [ 献 47]

### 概要

コマンドラインのインストールを使用すると、複数のコンピュータに対して  
AssetCenterのインストールを標準化および自動化することができます。

コマンドラインからインストールを実行するためには、特定のパラメータを定義する必要があります。

AssetCenterインストールパラメータは、.msiファイル内で定義されます。

デフォルトでAssetCenterインストールCD-ROM上で提供されるファイルは、AssetCenter.msiという名前です。

.msiファイルの変更は、Orcaという名前のMicrosoftのプログラムによって実行されます。

Orcaは、設定を実行するために使用するコンピュータにインストールする必要があります。

## 準備

### Orcaをインストールする

Orcaをインストールするには

- 1 Microsoft Internet Explorerを起動します。



次のページを表示するためには、Microsoft Internet Explorer (c) version 5.0以上が必要です。

- 2 次のURLを表示します。

[http://msdn.microsoft.com/library/default.asp?url=/library/en-us/msi/setup/orca\\_exe.asp](http://msdn.microsoft.com/library/default.asp?url=/library/en-us/msi/setup/orca_exe.asp)

- 3 指示に従います。

### Orcaの使用に関するヘルプの取得

Orcaのマニュアルを表示するには

- 1 インターネットブラウザを起動します。
- 2 次のURLを表示します。

<http://support.microsoft.com/kb/255905/>

### .msiファイルとsetup.exeおよびmsiexec.exeパラメータに関するヘルプを取得する

これらのファイルに関するマニュアルを表示するためには、Microsoft Platform SDK オンラインヘルプを参照してください。

このオンラインヘルプは、Windowsの [ スタート / プログラム / **Microsoft Platform SDK XXX / Platform SDK Documentation** ] メニューで表示できます。

### AssetCenterインストールを設定する

AssetCenterインストールを設定するとは、AssetCenter.msiファイルをOrcaで変更することです。



### 警告:

AssetCenter.msiファイルの変更はできますが、名前は変更できません。

ここでは、.msiファイルの特定パラメータについてのみ説明します。  
その他すべてのパラメータについては、.msiファイルのヘルプを参照してください。

- 1 Windows Explorerを起動します。
- 2 AssetCenterインストール元フォルダ（インストールCD-ROM、acフォルダ）の内容をハードドライブ（例えばC:\Temp\ac\）にコピーします。
- 3 Orcaを起動します。
- 4 AssetCenter.msiファイルを開きます（ [ **File / Open** ] ）。これは、CD-ROMの内容をコピーしたフォルダにあります。
- 5 インストールするコンポーネントを設定します。
  - a [ **Tables** ] 列で「Feature」を選択します。  
インストールの可能性があるコンポーネントのリストがOrcaによって表示されます。  
[ **Title** ] 列では、コンポーネントを特定することができます。  
[ **Level** ] 列では、コンポーネントのインストール方法を管理することができます。
  - b 次に示すように、コンポーネントごとに [ **Level** ] 列を入力します。

[ <b>Level</b> ] 列の値	コマンドラインからのインストール動作	「Typical」のGUIインストール動作	「Custom」のGUIインストール動作
0	インストールされない	インストールされない	使用不可能
1	インストールされる	インストールされる	使用可能でデフォルトで選択される
200	インストールされない	インストールされない	使用可能だがデフォルトで選択されない

- 6 Windowsの [ **スタート** ] メニュー用に作られるプログラムグループを設定します。  
例えばデフォルトでは、AssetCenterはPrograms/ HP OpenView/ AssetCenter 5.00/ HP OpenView AssetCenterにインストールされます。  
パスを変更するには
  - a [ **Tables** ] 列で「Shortcut」を選択します。  
1行ごとにプログラムグループの各項目が表示されます。  
[ **Name** ] 列では、項目を特定することができます。  
[ **Directory** ] 列では、項目を作成するプログラムグループを表していません。

それは、プログラムグループのパスを保存する [ **Directory** ] テーブルのあるレコードの識別子です。

- b 変更するプログラムグループの識別子を記録しておきます。  
例：AssetCenterクライアントは、 [ **Name** ] 列の値「PEREGR~1|HP OpenView AssetCenter」によって識別されます。 [ **Directory** ] 列の値は「newfolder2」です。この値を記録しておきます。
- c [ **Directory** ] テーブル内でこれらの識別子をそれぞれ検索します。
- d [ **Tables** ] 列で [ **Directory** ] を選択します。
- e [ **Directory** ] 列のヘッダーをクリックしてソートします。
- f 変更するプログラムグループごとに、 [ **Directory** ] 列でその識別子を選択し、 [ **DefaultDir** ] 列の値を変更します。  
この例では、「newfolder2」を検索します。



**警告:**

ソートは大文字と小文字を区別します。そのため、「newfolder2」はリストの最後にあります。

- 7 設定を保存します ( [ **File / Save** ] メニュー)。
- 8 終了します ( [ **File / Close** ] メニュー)。

## 実行

### 概要

インストールを開始するには、AssetCenter CD-ROMのsetup.exeを実行します。setup.exeで使用可能なパラメータは、次のコマンドで表示できます。

```
setup.exe /?
```

パラメータにより初期化ダイアログボックスを非表示にする例を示します。

```
setup.exe /S
```

- 1 setup.exeは、WindowsがデフォルトでインストールするMsiExec.exeプログラムをインストールまたはアップグレードします。
- 2 setup.exeは、Orcaを使ってカスタマイズしたAssetCenter.msiファイルの設定でインストールを行うMsiExec.exeプログラムを始動します。

MsiExec.exeで使用可能なパラメータは次のコマンドで表示できます。

```
MsiExec.exe /?
```



#### 警告:

このオプションは、MsiExecバージョン3以降でのみ使用できます。  
これより前のバージョンの場合、MsiExec.exeのバージョンに対応したマニュアルを参照してください。

GUIを使わない無人インストールを可能にするパラメータの実行例を次に示します。

```
MsiExec.exe /qn
```

パラメータをsetup.exeによってMsiExec.exeに送信するには、パラメータの先頭に以下の文字を付ける必要があります。

```
/V
```

無人インストールを可能にするパラメータの実行例は次のとおりです。

```
setup.exe /V/qn
```



#### 警告:

/Vの後にコマンドを続ける場合は、必ずスペースなしで/Vに続ける必要があります。

### コマンドラインからインストールを実行する

コマンドラインからAssetCenterをインストールするためには、さまざまな方法があります。

このセクションでは次の特徴を持つインストールの例を示します。

- ダイアログボックスを開かずにsetup.exeを実行する。
  - ユーザ入力、GUIなしで、msiexec.exeを実行する。
  - インストールプログラムによるメッセージをC:\Temp\log.txtファイルに保存する。
  - AssetCenterをフォルダC:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00 xxにインストールする。
- 1 DOSコマンドプロンプトを開きます。
  - 2 setup.exeプログラムファイルとカスタマイズ可能なAssetCenter.msiファイルがあるAssetCenterインストール元フォルダに移動します。
  - 3 以下のコマンドを実行します。

```
setup.exe /S /V"/qn /!* C:\Temp\log.txt INSTALLDIR="C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00 xx\""
```

解説:

- setup.exe: msiexec.exeのローカルバージョンをテストして必要な場合は更新するために、setup.exeによってインストールを始動します。

---

 注意:

AssetCenterのインストールでは、バージョン2以上が必要です。

- /S: setup.exeを初期化ダイアログボックスなしで実行します。
- /V: 後に続くパラメータがmsiexec.exeに送られます。  
/Vの後のコマンドは、全体をダブルクォーテーションマークで囲みます。
- /qn: msiexec.exeをユーザ入力またはGUIなしで実行します。
- /! \* C:\Temp\log.txt: インストールプログラムの大部分のメッセージをC:\Temp\log.txtファイルに保存します。
- INSTALLDIR="C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00 xx\": AssetCenterをC:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00 xxフォルダにインストールします。  
パスの中のProgramとFilesの間に空白を入れるために、「\」を使用していることに注意してください。

4

 注意:

上記のコマンドラインを実行すると、ただちにコマンドプロンプトが表示されます。インストール完了の通知はありません。

ログファイル（上記の例ではC:\Temp\log.txt）の最後の行にInstallation completeのテキストがあれば、インストールは完了しています。

---

## コマンドラインからアンインストールを実行する

コマンドラインからAssetCenterをアンインストールするには、さまざまな方法があります。

次の例をお勧めします。

- 1 AssetCenterアンインストールに相当するレジストリキー番号を特定します。
  - a レジストリエディタregedit.exeを起動します（Windowsの [ スタート / ファイル名を指定して実行 ] メニュー）。
  - b HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Uninstallを開きます。
  - c AssetCenterに対応するキーを検索します。中括弧で囲まれたキーの詳細を表示し（左側のパネル）、**DisplayName**フィールドの値を確認します（右側のパネル）。このフィールドには名前AssetCenterとそのバージョンが含まれます。
  - d このキーを選択します。
  - e キーの名前をコピーします（ [ キー名のコピー ] ショートカットメニュー）。  
対象となる部分は、次に示すように中括弧の間にあります。

```
{A79E51C8-4E8E-40CE-A56E-143395D011C1}
```

- f レジストリエディタを終了します。
- 2 DOSコマンドプロンプトを開きます。
- 3 次の形式でコマンドを実行します。

- `msiexec.exe /x <レジストリキー> /qn /!* <ログファイルの完全パス>`

例：

```
msiexec.exe /x {A79E51C8-4E8E-40CE-A56E-143395D011C1} /qn /!* C:\Temp\log.txt
```

解説：

- ▶ [コマンドラインからインストールを実行する](#) [ 献 46]
- `/x: msiexec.exe`によりアンインストールを実行します。



**注意:**

コマンドラインからアンインストールを実行する場合、部分的にアンインストールすることはできません。

---

---

4



**注意:**

上記のコマンドラインを実行すると、ただちにコマンドプロンプトが表示されます。アンインストール完了の通知はありません。

ログファイル（上記の例では C:\Temp\log.txt）の最後の行に Uninstallation completed successfully のテキストがあれば、アンインストールは完了していません。

## 5 Windowsでの設定（AssetCenter Webを除く）

AssetCenterプログラムをインストールした後、使用するモジュールやAssetCenterに統合するモジュールに応じて補足操作を実行する必要があります。本章ではこれらの補足操作について説明します。

---

### DB2データベース用のCコンパイラ

5.0データベースは、SQL言語のストアードプロシージャを使用します。SQL言語のストアードプロシージャをバージョン8.1以前のDB2で使用することは不可能なため、Cコンパイラが必要です。

---

#### 注意:

DB2バージョン8.2の場合は、本章を無視してかまいません。

---

以下の手順に従います。

- 1 データベースサーバ上にCコンパイラをインストールします。

---

#### ヒント:

Microsoft Visual Studioバージョン6をお勧めします。これならDB2と容易に統合することが出来ます。

---

- 2 Cコンパイラの位置をDB2サーバに知らせるために、DB2のインストール先フォルダの「\function\routine\」サブフォルダにある「sr\_cpath.bat」ファイルを更新します。

例：

標準「sr\_cpath.bat」ファイルの以下のセクションは、

```
@echo off
REM set VCV6_DRIVE=C:\Microsoft Visual Studio
REM set include=%include%;%VCV6_DRIVE%\VC98\at\include;%VCV6_DRIVE%\VC98\mfc\include;%VCV6_DRIVE%\VC98\include
REM set lib=%lib%;%VCV6_DRIVE%\VC98\mfc\lib;%VCV6_DRIVE%\VC98\lib
REM set path=%path%;%VCV6_DRIVE%\Common\Tools\WinNT;%VCV6_DRIVE%\Common\MSDev98\Bin;%VCV6_DRIVE%\Common\Tools;%VCV6_DRIVE%\VC98\bin;%VCV6_DRIVE%\VC98\mfc\lib;%VCV6_DRIVE%\VC98\lib
```

以下のセクションに置き換えられています。

```
@echo off
set VCV6_DRIVE=F:\Program Files\Microsoft Visual Studio
set include=%include%;%VCV6_DRIVE%\VC98\at\include;%VCV6_DRIVE%\VC98\mfc\include;%VCV6_DRIVE%\VC98\include
set lib=%lib%;%VCV6_DRIVE%\VC98\mfc\lib;%VCV6_DRIVE%\VC98\lib
set path=%path%;%VCV6_DRIVE%\Common\Tools\WinNT;%VCV6_DRIVE%\Common\MSDev98\Bin;%VCV6_DRIVE%\Common\Tools;%VCV6_DRIVE%\VC98\bin;%VCV6_DRIVE%\VC98\mfc\lib;%VCV6_DRIVE%\VC98\lib
```

---

## Oracle DLL

Oracleアクセス用のDLLには様々なバージョンがあります。AssetCenterはサポートされているバージョンを動的に読み込みます。AssetCenterはDLLをバージョン番号の高い順から検索します。

- 1 oraclient10.dll
- 2 oraclient9.dll
- 3 oraclient8.dll

ただし、「am.ini」ファイルに以下のような項目を追加すれば、この順序を変更して特定のDLLファイルを読み込むこともできます。

```
[DLL]
orcl = <xxx>.dll
```

このファイルの場所：▶.iniおよび.cfgファイル [ 献 57]

## メッセージシステム

### Windows上でサポートしているメッセージシステムの標準規格

- VIM
- Extended MAPI
- SMTP



#### 注意:

Simple MAPIはサポートされていません。

### 外部メッセージシステムのインストール

AssetCenterで外部メッセージシステムを正常に機能させるには、次の条件が必要です。

メッセージシステムの標準規格	必要な条件
VIM	システムのPATH環境変数に、「vim32.dll」ファイルが入っているフォルダのパスが指定されている必要があります。  例：Lotus NotesのDLLファイルは一般にNotesによりNotesと同じフォルダにインストールされます。PATHは通っていません。
SMTP	TCP/IPレイヤを必ずインストールします。  SMTPメッセージシステムを正しくインストールした場合には注意します。

### AssetCenterから外部メッセージシステムにメッセージを送信するための設定

メッセージシステムの機能を最大限に利用するには、次の作業を行う必要があります。

必要な作業	参考マニュアル
管理者およびユーザのメッセージ用アドレスを指定する。	『管理』マニュアルの「メッセージシステム」の章、「AssetCenterでメッセージシステムを指定する」の節
調達、ヘルプデスク、アラームなどで使う「メッセージ」タイプのアクションを作成する。	『AssetCenterの高度な使い方』、「アクション」の章、「アクションの作成」の節、「[メッセージ] タブページに入力する」
調達、ヘルプデスク、アラームなどにリンクされているメッセージを送信するためにAssetCenter Serverを設定する。	『管理』マニュアルの「AssetCenter Server」の章

## 必要な作業

AssetCenter Serverを実行する。

## 参考マニュアル

『管理』マニュアルの「AssetCenter Server」の章

トラブルシューティング

『管理』マニュアルの「メッセージシステム」の章、「一般的な接続エラー」の節

メッセージシステムの使用方法の詳細については、以下を参照してください。

- 『管理』マニュアルの「メッセージシステム」の章
- 『AssetCenterの高度な使い方』マニュアルの「メッセージ」の章

---

## AssetCenter Server

AssetCenter ServerはAssetCenterクライアントから独立したプログラムです。AssetCenterの調達、在庫、履歴、またはリースのドメインでトリガされるアラーム、メッセージやアクションをモニタしたり、特定のフィールドの値を計算したりします。

これらの処理が正しく行われるために、ユーザは先ず、少なくとも1台のコンピュータ上でAssetCenter Serverを常時稼動し、次にAssetCenter Serverを本番データベースに接続する必要があります。

AssetCenter Serverの詳細については、『管理』マニュアルの「AssetCenter Server」の章を参照してください。

AssetCenter ServerのモジュールはConnect-ItとConnect-Itのコネクタを使用し、以下のようなデータの自動インポートを実行します。

- Enterprise Discovery棚卸アプリケーションによって実行される棚卸。
- 外部アプリケーションからのデータのインポート

このようなモジュールを使用する場合はConnect-Itをインストールします。

Connect-Itの動作環境、またはインストール方法についてはConnect-Itのマニュアルを参照してください。

AssetCenter ServerとConnect-Itの統合方法については、AssetCenterの『管理』マニュアルの「AssetCenter Server」章の「AssetCenter Serverでモニタするモジュールを設定する」を参照してください。

### WindowsでAssetCenter Serverを導入する

このプログラムを使えるようにするには少なくとも1台のパソコンにWindows 2000かXP ProfessionalかServer 2003をインストールしなければなりません。

AssetCenter Serverは以下のいずれかの方法で起動できるようにインストールされます。

- Windowsの[スタート]メニューのショートカットから手動で起動
- サービスとして自動的に起動

---

 **ヒント:**

AssetCenter Serverは、サービスとして起動することをお勧めします。

---

 **注意:**

AssetCenter Serverサービスを適切にインストールするには、以下の手順に従ってください。

- 1 Windowsでユーザアカウントを作成します（このサービスをインストールする予定のコンピュータで）。  
このアカウントには、AssetCenter Serverサービスの起動に必要な権限がなければなりません。  
このアカウントの環境は、AssetCenter Serverサービスのコンピュータ上にインストールされたDBMSのクライアント層の使用を、許可しなければなりません。  
ローカルシステムアカウントは、デフォルトではシステムの環境変数にしかアクセスしないことを念頭に置いてください。
- 2 AssetCenter Serverサービスをこのアカウントでインストールします。

---

デフォルトでは、このプログラムのサービスが自動的に起動するように設定されていますが、これは変更可能です。

コントロールパネルの [ サービス ] を使うと、コンピュータで使用可能なWindowsサービスを開始、停止、設定できます。

- Windows 2000の場合
  -  ボタン：停止しているサービスを開始します。
  -  ボタン：サービスを停止します。
  -  ボタン：サービスを再起動します。
  -  ボタン：サービスを中断します。

AssetCenter Serverサービスを、Windowsの自動モードで起動するには、

- 1 サービスのウィンドウからAssetCenter Serverサービスを選択します。
  - 2 右クリックし、ポップアップメニューで [ プロパティ ] を選択します。
  - 3 [ スタートアップの種類 ] フィールドを [ 自動 ] にします。
- 

 **注意:**

AssetCenter Serverの場合は、一度正常に動作することを確認したら、スタートアップモードを [ 自動 ] に設定して、Windowsの起動時に自動的に開始させることをお勧めします。

---

---

 **注意:**

サービスは、デフォルトでWindowsのシステムアカウントを使用します。AssetCenter Serverがデータベースに接続できない場合は、[スタートアップ]ボタンをクリックして、データベースにアクセスできるアカウントを使うようにサービスを設定します。

---

---

## Crystal Reports

Crystal Reportsのインストール、設定と使用については、マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「Crystal Reports」の章を参照してください。

---

## Connect-Itを統合する

AssetCenterにはConnect-It完全版と、マニュアルが付属しています。

### 必要なConnect-Itのバージョン

Connect-ItとAssetCenterを統合するには、AssetCenterインストール用CD-ROMに提供されているConnect-Itのバージョン、またはそれ以降が必要です。

### Connect-Itの用途

AssetCenter Serverが自動的に起動する一部のアクションでは、Connect-Itが必要になります。例えば、

- AssetCenterデータベースへの接続時にNTセキュリティを使用するために、データベースにNTユーザを追加する場合

---

 **警告:**

AssetCenter ServerのWindowsバージョンが必要です。

- データベースにNTドメインで宣言されたコンピュータを取得する場合

---

 **警告:**

AssetCenter ServerのWindowsバージョンが必要です。

- 例えば、棚卸データをEnterprise Discoveryからインポートする場合  
Connect-Itの動作環境、またはインストール方法についてはConnect-Itのマニュアルを参照してください。

AssetCenter ServerとConnect-Itの統合方法については、AssetCenterの『管理』マニュアルの「AssetCenter Server」章の「AssetCenter Serverでモニタするモジュールを設定する」を参照してください。

---

## リモートコンピュータのスキャン

AssetCenterでは様々な方法でリモートコンピュータをスキャンできます。

この種のスキャンを実行する方法は数種あります。

リモートコンピュータのスキャン方法については、AssetCenterの『ポートフォリオとソフトウェアライセンス』マニュアル「ITポートフォリオ」の章、「コンピュータ」の節に説明されています。

---

## Get-Answers

Get-Answersの動作環境とインストール方法については、Get-Answersのマニュアルを参照してください。

Get-AnswersとAssetCenterの統合方法については、AssetCenterの『はじめに』マニュアルの「Get-Answers」の章を参照してください。

---

## デモ用データベース

AssetCenterはデモ用データベースと共にインストールされます。

このデータベースには次の機能があります。

- AssetCenter付属のライセンスファイル ( license.cfg ) を使って起動できます。  
このファイルはソフトウェアの全部または一部へのアクセスを許可します。
- AssetCenter ServerおよびAssetCenter Database Administratorによるアクセスも可能です。

デモ用データベースは、AssetCenterインストールフォルダのacdemoサブフォルダにコピーされています。

該当ファイルは、ACDemo50.mdfです。

---

### 注意:

インストール時に、ユーザが「itam」でパスワードが「password」であるインスタンスを使用して、デモ用データベースがMSDEに宣言されます。

## データベースへの接続

- 1 MSDEインスタンスがインストール済みであり、該当のWindowsサービス（AssetCenter付属のMSDEインスタンス用のMSSQL\$ASSETCENTER）が開始済みであることを確認します。
- 2 AssetCenterを起動します。
- 3 AssetCenterに [ データベースに接続 ] ウィンドウが表示されます。このウィンドウへ次のように入力します。

フィールド	値
接続	ACDemo50ja
ログイン	Admin
パスワード	空



### 注意:

他のログインも使用できます。

- 4 デモ用データベースに最初に接続するときに、 [ ライセンスファイル ] ウィンドウが表示されます。AssetCenterに添付されたライセンスファイルlicense.cfgを選択します。

## 6 .iniおよび.cfgファイル

AssetCenterスイートに属するプログラムは、設定ファイル（.iniおよび.cfg拡張子）に関連付けられています。

### 使用可能な.iniおよび.cfgファイル

使用できる主な.iniおよび.cfgファイルの一覧を次に示します。

表 6.1. .iniおよび.cfgファイル - 主なファイルの一覧

プログラム（Windowsでは.exeまたは.dllを追加し、Unixではおそらく.soを追加）	.iniまたは.cfgファイル	説明
AssetCenter am	aamdisk50.ini	ユーザ表示オプション すべてのウィンドウをデフォルト設定に戻す場合は、このファイルを削除します。
	am.ini	AssetCenterユーザオプション
AssetCenter Database Administrator amdba amdbal	amdba.ini amdbal.ini	AssetCenter Database Administratorユーザオプション ユーザ表示オプション

プログラム ( Windowsでは.exe または.dllを追加し、Unixでは おそらく.soを追加 )	.iniまたは.cfg ファイル	説明
AssetCenter Export	amexp.ini	AssetCenter Export ユーザオプション
amexp	amexpl.ini	ユーザ表示オプション
amexpl		
AssetCenter Import	amimpl.ini	AssetCenter Importユーザオプション
amimpl		ユーザ表示オプション
AssetCenter Script Analyzer	amsg.ini	AssetCenter Script Analyzerユーザオプション
amsg		ユーザ表示オプション
AssetCenter Server	amsrv.ini	AssetCenter Serverユーザオプション
amsrv	amsrv.cfg	ユーザ表示オプション
amsrvl	amsrvl.ini	
	amsrvcf.ini	Webサーバとして実行中のAssetCenter Serverの パラメータ
AssetCenter API	aamapi50.ini	プログラム ユーザ オプション
aamapi50		
次のプログラムのすべて	amdb.ini	データベース接続のリスト
	mail.ini	AssetCenterメッセージシステムの設定

表 6.2. .iniおよび.cfgファイル - 主なファイルの場所

.iniまたは.cfgファイル	場所
aamdisk50.ini	Windows 9xまたはMEの場合: Windowsルートイ ンストール先フォルダ
am.ini	
amdba.ini	Windows ( NT系 ) の場合: 「 \<Documents and Settings>\<Windowsユーザ> 」 フォルダ
am.ini	Unixの場合 : 「 ~/.ov/conf/ 」 フォルダ
amdba.ini	
amdbal.ini	
amexp.ini	
amexpl.ini	
amimpl.ini	
amsg.ini	
amsrv.ini	
amsrvl.ini	
aamapi50.ini	
amsrvcf.ini	amsrv実行可能ファイルと同じフォルダ

.iniまたは.cfgファイル	場所
amsrv.cfg	amsrv実行可能ファイルと同じフォルダ  注意: 旧バージョンのAssetCenterからアップグレードしている場合、amsrv.cfgが実行可能ファイルamsrvの親フォルダにある場合があります。これでも機能します。
amdb.ini	Windows 9xまたはMEの場合: Windowsルートインストール先フォルダ Windows (NT系) の場合: <ul style="list-style-type: none"> <li>■ システム接続: Windowsルートインストール先フォルダ</li> <li>■ ユーザ接続: 「\&lt;Documents and Settings&gt;\&lt;Windowsユーザ&gt;」フォルダ</li> </ul> Unixの場合: <ul style="list-style-type: none"> <li>■ システム接続: 「/etc/HP OpenView/」フォルダ</li> <li>■ ユーザ接続: 「~/ov/conf/」フォルダ</li> </ul>
mail.ini	Unixの場合: 「~」フォルダ

## 「.ini」ファイルを変更する

- 「.ini」ファイルのエントリは以下のような場合に変更される可能性があります。
- プログラムにより自動的に変更: 変更を確定したときまたはプログラムを終了するとき保存されます。後者の場合、[ファイル/終了]を使ってアプリケーションを終了しない場合は、変更は保存されません。
  - 手動で変更

可能な限り、AssetCenterプログラムから「.ini」ファイルエントリを変更するようにしてください。

ただし、手動でしか作成および変更できない.iniファイルエントリもあります。

### 注意:

「.ini」ファイルの手動による変更は複雑な作業なので、十分な知識をもったユーザのみが行ってください。

以下の表では手動でしか変更できない「.ini」ファイルのエントリを記しています。

 注意:

以下の表では、「.ini」ファイルのエントリの一部だけを記しています。すべてのエントリが記載されているわけではありません。この表にないセクションやエントリは、手動で変更してはいけません。

ブール型のエントリの値を「1」または「0」で記しています。「1」や「0」の代わりに「True」や「False」という表現も使えます。

## 「am.ini」ファイルのエントリ

### [ OPTION ] セクション

表 6.3. [ OPTION ] セクション

エントリ	説明
bSaveOptionOnExit	プログラムを使って [ Option ] に加えた変更を、AssetCenter終了時に保存しない場合は、「0」に設定します。 デフォルトでは、変更内容は保存されます。
CmdComboLines	ツールバーから選択可能なビューおよびアクションのリストに表示する項目数を制限します。
CNtbkTabCfg.bShowFlyby	詳細画面でタブのヒントを表示します。 <ul style="list-style-type: none"><li>0: いいえ</li><li>1: はい</li></ul>
KeyIniFileName	aamdisk50.iniファイルのパスを指定します。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">KeyIniFileName=aamdisk50.ini</div> <p>例</p> AssetCenterはファイルaamdisk50.iniを使用します。このファイルはネットワークドライブに置いてかまいません。この場合、このファイルを読取り専用として設定し、ユーザが設定を変更できないようにすることができます。
NewMailLastCheck	AssetCenterメッセージが最後に読み取られた時間。 単位: 1970年1月1日午前0時から経過した秒数
opt_bAskForConcurrentModifications	このエントリでは、ユーザが [ 変更 ] ボタンをクリックしたときに、別のユーザが同じレコードを変更している場合に、確認ダイアログボックスを表示するかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>1: 確認ダイアログボックスを表示する。</li><li>0: 確認ダイアログボックスを表示せず、変更をただちに保存する</li></ul>

エントリ	説明
opt_bCommitDeletesOneByOne	このオプションは、レコードをまとめて削除するときに役立ちます。有効にすると、レコードは1つずつ削除されます（レコードごとに1つのトランザクション）。それ以外の場合は、1回のトランザクションですべてのレコードが削除されます。 デフォルト値：0
opt_ImportCacheSize	照合更新キーを使ってデータをインポートするときに、インポートパフォーマンスを改善するのに使用するキャッシュメモリのサイズを設定します。 単位：検出されたレコード数 デフォルト値：100
StartSunday	週を月曜日から始めるか（StartSunday=0）、日曜日から始めるか（StartSunday=1）を指定します このオプションは、カレンダーで使われます。

## [ SQL ] セクション

表 6.4. [ SQL ] セクション

エントリ	説明
OracleDLL	Oracleと対話するために読み込むOracle DLLの名前を設定します。

## 「amsrv.ini」ファイルのエントリ

### [ OPTION ] セクション

表 6.5. [ OPTION ] セクション

エントリ	説明
MaxRentPerTrans	このエントリは、賃貸料の作成に使われます。 トランザクションごとの賃貸料の最大計算数を設定します。 デフォルト値：200
MaxMsgInList	AssetCenter Serverのメインウィンドウのリストに表示する行数を設定します。 デフォルト値：5000

エントリ	説明
<Module>LastCheck ここで、<モジュール>の値は、Alarms、CostCenter、HDAlarms、History、LostVal、Rent、Stats、Stock、TimeZone、UpdateToken、WkGroup、WkGroup<xxx>、WorkflowFinderのいずれか。	LastCheckという接尾語を持つ行は、モジュールの最後の実行日に対応します。 AssetCenter Serverを再起動したときに、モジュールを次に実行する日付を計算できます。 実行グループ<xxx>が存在しない場合は、プログラムは自動的にこれを実行する必要がないので、WkGroup<xxx>LastCheck行（または、実行グループなしのワークフローチャートがない場合はWkGroupLastCheck行）を削除できます。

## 「amsrvcf.ini」ファイルのエントリ

amsrvcf.iniファイルのエントリについては、インストールで作成されるこのファイル自身に記述されています。

## 「amexp.ini」ファイルのエントリ

### [ OPTION ] セクション

表 6.6. [ OPTION ] セクション

エントリ	説明
MaxOldDoc	[ ファイル ] メニューに保持される最近使用したファイルの最大表示数。

## 「amdb.ini」ファイルのエントリ

AssetCenterの接続に対応する各セクションごとに、以下のエントリを変更できます。

表 6.7. 「amdb.ini」ファイルのエントリ

エントリ	説明
AmApiDll	AssetCenterのaamapi50 API DLLのパスを設定します。 このエントリは、Connect-ItとOAAに使用されます。
FetchingArraySize	SQLステートメントの実行時に先読みする行数。 デフォルト値：30

エントリ	説明
OdbcLockingTime	<p>Microsoft SQL Serverデータベース（MSDEを含む）の場合、レコードが別のユーザによってロックされたと見なされるまでの時間を設定します。</p> <p>単位：秒</p> <p>デフォルト値：60</p> <p><b>警告:</b></p> <p>この値が小さすぎると、処理量の多いサーバで実行する場合にインポートが中断されることがあります。</p>
OldStyleCatalog	<p>Oracleデータベースの場合は、このエントリで、デフォルトの「All_Catalog」ビューの代わりに「Tab」ビューを使用することを強制できます。</p> <p>次の2つの値のどちらかに設定できます</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1：「Tab」を使う。</li> <li>■ 0：「All_Catalog」を使う。</li> </ul>

## .iniファイルの変更を抑制する

.iniファイルは、オプション変更時にそれぞれのアプリケーションによって自動的に変更されます。

複数の実行可能ファイルまたは実行可能ファイルの複数のインスタンスが同じ.iniファイルに関連付けられている場合、最後に変更を保存した実行可能ファイルの変更内容が書き込まれます。

これらの変更を抑制したい場合は、.iniを読み取り専用にすることをお勧めします。

これは、特にaamapi50.iniファイルに当てはまります。



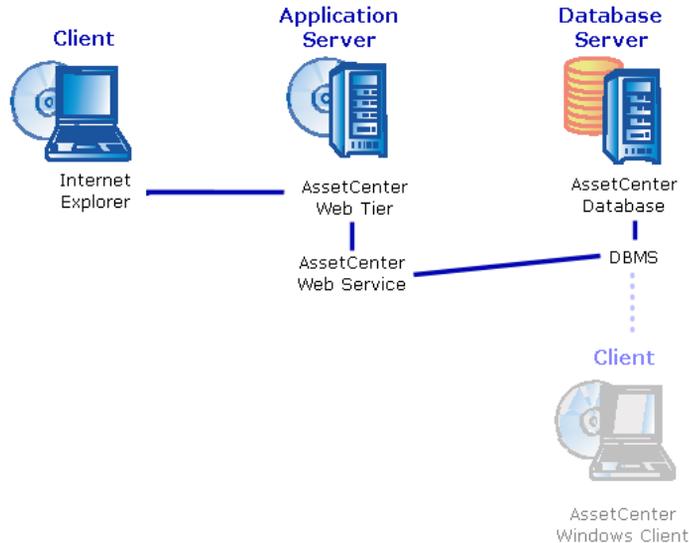
---

## 7 AssetCenterWebのインストール、設定、アンインストール

---

AssetCenter Webアーキテクチャ

## 図 7.1. AssetCenter Webアーキテクチャ



- Internet Explorerを使ってAssetCenterにアクセスできます。
- AssetCenter Web TierがInternet Explorerから受け取った要求をAssetCenter Web Serviceに送ります。
- AssetCenter Web ServiceがAPIを使ってAssetCenterデータベースを参照または変更します。
- AssetCenter Web ServiceがデータをデータベースからAssetCenter Web Tierに送ります。
- AssetCenter Web Tierが表示するページをInternet Explorerに送ります。
- AssetCenter Web Tier、AssetCenter Web Serviceは別々のアプリケーションサーバをホストとすることができます。
- システムパフォーマンスを改善するために、AssetCenter Web Tierに接続するWebクライアント数の増加とともに、AssetCenter Web TierとAssetCenter Web Serviceのインスタンス数を増加させることができます。

- クライアントとアプリケーションサーバは、HTTPプロトコルを使って通信します。

 **注意:**

AssetCenter Web Serviceを使って、AssetCenter Web Tierの他にServiceCenter Web TierなどのWebアプリケーションを実行することもできます。

生成されるWebアプリケーションを同じInternet Explorerセッション中に使用して、同じ認証手順を共有することができます。

---

## 実用例

 **警告:**

このセクションでは、Tomcat5.0.28をアプリケーションサーバとして実行するローカルテストマシン上にインストールされているAssetCenterWebの例を示します。この実用例は、AssetCenterWebのパフォーマンスの最適化を目的としたものではありません。

Tomcat 5.0.28とJ2SE v 1.4.2\_11 SDKは、必ずしも本番モードでサポートされているソフトウェアに対応しているとは限りません。

サポートされているソフトウェアの詳細については、[互換性一覧 \(www.hp.com/managementsoftware/peregrine\\_support\)](http://www.hp.com/managementsoftware/peregrine_support) を参照してください。本番環境におけるインストールの詳細については、「▶ AssetCenter Webのインストール [献 71]」を参照してください。

- 1 Internet Explorer 6.0をインストールします。
- 2 Internet Explorer6.0を起動します。
- 3 Internet Explorer6.0を設定（ [ ツール / インターネットオプション ] メニューの [ セキュリティ ] タブ ）して、Internet Explorer 6.0で以下の項目を実行できるようにします。
  - JavaScriptを実行
  - ポップアップウィンドウを表示
  - Cookie を受け取る
- 4 AssetCenterをインストールします。ここで、「xx」は、ご使用のAssetCenterインストールの2文字言語コードを表します（マニュアル▶ 『インストールとアップグレード』の「AssetCenterインストール前の注意事項」と「手動インストール（GUI）」の章）。  
セットアップタイプは [ カスタム ] モードを選択します。  
次のコンポーネントを選択します。

- AssetCenterクライアント（Windowsクライアント）
  - AssetCenter API
  - デモ用データベース
  - WebサービスとWebクライアント
- 5 AssetCenter Windowsクライアントを起動します（Windowsメニューの [ プログラム / HP OpenView / AssetCenter 5.00 / HP OpenView AssetCenter ] ）。
  - 6 接続ウィンドウで次のフィールドを入力し、デモ用データベースに接続します。

フィールド	値
接続	ACDemo50ja
ログイン	Admin
パスワード	このフィールドは空白のままにします

- 7 AssetCenterと共に取得したデモ用データベースを使用するためのライセンスを入力します。
- 8 Windowsクライアントを終了します。
- 9 <http://java.sun.com/j2se/1.4.2/download.html>から、J2SE 1.4.2\_11 SDKをC:\j2sdk1.4.2\_11フォルダにインストールします。
- 10 J2SE v 1.4.2\_11 SDKインストールフォルダがポイントされるよう、JAVA\_HOMEシステム変数を追加または変更します（Windowsでは、[ スタート / 設定 / コントロールパネル ]、[ システム ] をダブルクリックし、[ 詳細設定 ] タブの [ 環境変数 ] ボタンをクリックして表示されるシステム環境変数枠）。  
使用する値:

C:\j2sdk1.4.2\_11

- 11 <http://tomcat.apache.org/download-55.cgi#5.0.28>から、Tomcat 5.0.28をC:\Tomcat50フォルダにインストールします  
Windows Executable（pgp、md5）をダウンロードします。  
次を除き、インストールプログラムがデフォルトで指定したオプションを確定します。
  - インストールフォルダはC:\Tomcat50である必要があります。
  - インストールが完了したら、Tomcatを起動させるかをたずねるボックスをクリアしておきます。
- 12 Tomcat設定コンソールを起動します（Windowsでは、[ スタート / プログラム / Apache Tomcat 5.0 / Configure Tomcat ] をクリックします）。
- 13 [ Java ] タブをクリックします。
- 14 次のフィールドに入力します。

フィールド	値
Java Classpath	C:\jdk1.4.2_11\lib\tools.jar;C:\Tomcat50\bin\bootstrap.jar
Java Options	この行を追加します:  -Djava.library.path=C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00 xx\bin ここで、「xx」は、ご使用のAssetCenterインストールの2文字言語コードを表します。
Initial memory pool	512 (またはお使いのコンピュータに適合する別の値)
Maximum memory pool	1024 (またはお使いのコンピュータに適合する別の値)

- 15 Tomcat設定コンソールを閉じます。
- 16 ac-constants-50.jarとac-jni-50.jarファイルをコピーします (デフォルトの場所は、C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00 xx\websvc\libフォルダで、「xx」は、ご使用のAssetCenterインストールの2文字言語コードを表します)。それをTomcatのC:\Tomcat50\shared\libフォルダに貼り付けます。
- 17 Tomcatを停止します。
- 18 C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00 xx\webclient\config\AssetCenter.xmlファイルをコピーします。ここで、「xx」は、ご使用のAssetCenterインストールの2文字言語コードを表します。それをC:\Tomcat50\conf\catalina\localhostに貼り付けます。
- 19 C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00 xx\websvc\config\AssetCenterWebService.xmlファイルをコピーします。ここで、「xx」は、ご使用のAssetCenterインストールの2文字言語コードを表します。それをC:\Tomcat50\conf\catalina\localhostに貼り付けます。
- 20 テキストエディタを起動します。
- 21 C:\Tomcat50\conf\catalina\localhost\AssetCenterWebService.xmlファイルを開きます。
- 22 デフォルトの内容を以下の内容で置き換えます。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16"?>
<Context path="/AssetCenterWebService" reloadable="true" docBase="C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00 xx\websvc\AssetCenterWebService.war">
<Environment name="AssetCenter.DB.Name" value="[MSSQL;value="[MSSQL;ACD
emo50en;itam;Hk9pv/o7IA3mIV1/7cz3Aw==;0;c/tmp;0;AmApiDll='C:/Program File
s/HP OpenView/AssetCenter 5.00 en/bin/aamapi50.dll']" type="java.lang.String" ov
erride="false">
</Environment>
<Environment name="AssetCenter.DB.UserLogin" value="Admin" type="java.lang.
String" override="false">
</Environment>
<Environment name="AssetCenter.DB.UserPwd" value="bmKbCcaZLk4=" type="ja
va.lang.String" override="false">
```

```
</Environment>
<Environment name="acws.jaas.config.location" type="java.lang.String" override="false">
</Environment>
<Environment name="security.keystorePassword" value="falcon" type="java.lang.String" override="false">
</Environment>
<Environment name="security.keystoreUserAlias" type="java.lang.String" override="false">
</Environment>
<Environment name="security.keystoreUserPassword" type="java.lang.String" override="false">
</Environment>
</Context>
```

ここで、「xx」は、ご使用のAssetCenterインストールの2文字言語コードを表します。

- 23 AssetCenterWebService.xmlファイルで行った変更を保存します。
- 24 テキストエディタを終了します。
- 25 Tomcatを起動します。
  - a Tomcat monitoring consoleを起動します（Windowsでは、[ スタート / プログラム / Apache Tomcat 5.0 / Monitor Tomcat ] をクリックします）。
  - b Windowsタスクバーの右下にある [ Tomcat ] アイコンを右クリックします。
  - c [ **Start service** ] メニューを選択します。
  - d 赤い四角マークが緑の右向き三角マークに変わるのを待ちます。
- 26 AssetCenter Web Serviceの展開が成功したことを確認するため、以下の手順でテストを行います。
  - 1 Internet Explorer6.0を起動します。
  - 2 次のURLを表示します。

```
http://localhost:8080/AssetCenterWebService
```



**警告:**

テキストは大文字と小文字が区別されます。

- 3 正しく導入されている場合は、URLのページに次のようなヘッダが表示されます。

```
Database Base: Name ACDemo50en
Engine MSSQL
User itam
AmApiDll 'C:/Program Files/C:/Program Files/HP OpenView/AssetCenter 5.00 e
```

```
n/bin/aamapi50.dll'  
User: Admin  
Version: 5.00 - build <AssetCenter build number>
```

 **ヒント:**

ヘッダの後にエラーが表示された場合は、アプリケーションサーバのメモリ設定を再定義してください。

Tomcat 5.0の例： [ Initial memory pool ] と [ Maximum memory pool ] の設定。

27 次のURLを表示します。

```
http://localhost:8080/AssetCenter
```

 **警告:**

テキストは大文字と小文字が区別されます。

これにより接続ページが表示されます。

28 次のフィールドに入力します。

フィールド	値
ログイン	Admin
パスワード	パスワードは空欄にしておきます。

## AssetCenter Webのインストール

 **重要項目:**

AssetCenter Webのインストールは、AssetCenter Webの実行に使用するWebサーバとアプリケーションサーバを正しく設定できる技術を持つユーザのみが行ってください。

本書では、本書の目的外となるアプリケーションサーバとWebサーバのインストール方法の説明は行いません。

アプリケーションサーバとWebサーバの使用方法については、使用するサーバの説明書をご覧ください。

## 前提条件

### インストールするコンポーネント

#### 全アプリケーションサーバ

- AssetCenter Webをインストールする前に、下のリストのコンポーネントをインストール、設定、および起動する必要があります。手順は各コンポーネントのエディタの指示に従ってください。
- データベースサーバ上にAssetCenterデータベース
- アプリケーションサーバ。

アプリケーションサーバはネットワークインフラストラクチャ（ファイアウォールやプロキシなど）により保護される必要がありますが、インターネットブラウザからの接続は許可する必要があります。

---

#### 注意:

アプリケーションサーバをホストするコンピュータは、データベースにアクセスできなければなりません。

そのためには、AssetCenterデータベースのDBMSのクライアントレイヤがコンピュータにインストールされている必要があります。

---

- AssetCenterインストールプログラムによってアプリケーションサーバをホストするコンピュータ上にインストールできる、次のAssetCenterコンポーネント：
  - WebサービスとWebクライアント
  - AssetCenter API
  - LDAP認証（この機能を実装する場合）

---

 **重要項目:**

Webクライアントの表示に使用する言語バージョンのAssetCenterをインストールします。

マルチリンガル設定が可能なAssetCenterデータベースに、この言語が含まれている必要があります。

複数の言語バージョンのWebクライアントをインストールした場合は、同じ数のAssetCenter Webインスタンスをインストールする必要があります (AssetCenter Web ServiceとAssetCenter Web Tier)。

使用する言語が同じデータベースに含まれる場合は、これらのインスタンスはすべてそのデータベースを指定することができます。

言語によって異なるURLによって、Webクライアントで使用する表示言語を選択することができます。

▶マニュアル『管理』の「AssetCenterデータベースの作成、変更、削除」の章、「AssetCenterクライアントの表示言語」のセクション

---

 **重要項目:**

次のコンポーネントのどのバージョンがサポートされているかは、[互換性一覧 \(www.hp.com/managementsoftware/peregrine\\_support\)](http://www.hp.com/managementsoftware/peregrine_support) を参照してください。

- アプリケーションサーバ
- Webサーバ

- AssetCenter Web TierをUNIXサーバ上にインストールする場合、Java仮想マシン (JVM) がUNIXのグラフィック資源を使用しないように構成する必要があります。

これには、以下のパラメータを追加します。

```
-Djava.awt.headless=true
```

---

### Tomcatがアプリケーションサーバの場合

- 使用するTOMCATと併せて、J2SE Software Development Kit (SDK) をインストールする必要があります。

---

 **重要項目:**

どのJava Development Kitのバージョンが、ご使用をお考えのアプリケーションサーバと互換性があるかについては、[互換性一覧表](http://www.hp.com/managementsoftware/peregrine_support)

「[www.hp.com/managementsoftware/peregrine\\_support](http://www.hp.com/managementsoftware/peregrine_support)」を参照してください。

---

### WebSphere Application Server5.1がアプリケーションサーバの場合

- 最初に、WebSphere Application Server withをFP1（Fix Pack）とCF11（Cumulative Fix）で更新する必要があります。
  - J2SE v 1.4.2\_11 SDK SR5を使用する必要があります。
- 

#### 注意:

セキュリティのため、IBM提供によるWebSphere Application Serverインストールパッケージに納められたJDK以外のJDKが、WebSphere Application Server上にインストールされていないことを確認してください。

---

### WebSphere Application Server6.0がアプリケーションサーバの場合

- 最初に、WebSphere Application Server withをRF2（Refresh Pack）とCF11（Cumulative Fix）で更新する必要があります。
  - J2SE v 1.4.2\_11 SDK SR5を使用する必要があります。
- 

#### 注意:

セキュリティのため、IBM提供によるWebSphere Application Serverインストールパッケージに納められたJDK以外のJDKが、WebSphere Application Server上にインストールされていないことを確認してください。

---

## 取得するライセンス

### AssetCenter Web Service

AssetCenter Web Tier経由でAssetCenter Web Serviceを使用する場合、特別なライセンスを取得する必要はありません。

---

#### 注意:

AssetCenter Web Tierを経由せずに、AssetCenter Web Serviceを使用してAssetCenterデータベースにアクセスする場合は、特別なライセンスを取得する必要があります。

---

### AssetCenter Web Tier

AssetCenter Web Tierを使用するのに特別なライセンスを取得する必要はありません。

AssetCenter Web Tierで使用可能な機能は、取得した次のライセンスのタイプによって異なります。

- AssetCenter Web Service
- AssetCenter

## AssetCenter Webのインストールの準備

### 必要な暗号化パスワードを入手する

インストールの際に、次のパスワードの入力が必要となります。

- AssetCenterデータベースに接続するユーザに関連付けられたパスワード
- AssetCenterデータベースのMSSQLユーザ、DB2ユーザ、Oracleアカウント、またはSybaseアカウントと関連付けたパスワード

パスワードは、ユーザが入力した段階では暗号化されていません。

AssetCenter Web Serviceをインストールするときに設定する

AssetCenterWebService.xmlファイルに入力する必要がある暗号化されたバージョンのパスワードを生成する必要があります。

- 1 DOSコマンドプロンプトを開きます。
- 2 C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00 xx\websvc\passwordフォルダに移動します。ここで、「xx」は、ご使用のAssetCenterインストールの2文字言語コードを表します。
- 3 次のコマンドを実行します。

```
<J2SE SDKインストールフォルダ ( J2SE ) >\bin\java.exe -jar ac-pwd-crypt-50.jar  
<暗号化されていないパスワード>
```

- 4 暗号化したパスワードの値を書き留めておきます。

## AssetCenter Web Serviceのインストール

### Tomcatをアプリケーションサーバとして使用する場合

- 1 Tomcatを停止します。
- 2 AssetCenterWebService.xmlファイルをコピーします（デフォルトの場所は、C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00 xx\websvc\configフォルダ）。ここで、「xx」は、ご使用のAssetCenterインストールの2文字言語コードを表します。  
それをTomcatのconf\catalina\localhostフォルダに貼り付けます。
- 3 テキストエディタを起動します。
- 4 Tomcatのconf\catalina\localhostフォルダにあるAssetCenterWebService.xmlファイルを開きます。
- 5 次のパラメータを入力します。
  - docBase

値 AssetCenterWebService.warファイルへのパス（デフォルトの場所は、C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00 xx\websvcフォルダで、「xx」は、ご使用のAssetCenterインストールの2文字言語コードを表します）

**注意:**

AssetCenterWebService.warファイルには、J2EE互換Webアプリケーションが含まれます。

---

例 docBase="C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00 xx\websvc\AssetCenterWebService.war"  
ここで、「xx」は、ご使用のAssetCenterインストールの2文字言語コードを表します。

---

■ AssetCenter.DB.Name

値 [<エンジン>;<データソースまたはデータベースサーバ>;<ユーザまたはOracleアカウントまたはSybaseアカウント>;<ユーザ、Oracleアカウント、またはSybaseアカウントに関連付けた暗号化パスワード>;<キャッシュ有効化>;<ローカルキャッシュディレクトリ>;<キャッシュサイズ (KB) >;Owner=<所有者>;AmApiDll=<aamapi50.dllの完全パス>]

以下のオプションと共に使用できます

- エンジン：
  - MSSQL
  - Oracle
  - Sybase
  - DB2
- 暗号化されたパスワード: 「▶ 必要な暗号化パスワードを入手する [ 献 75]」
- キャッシュ有効化：
  - 0: キャッシュ無効
  - 1: キャッシュ有効
- キャッシュサイズ (KB) : 単位は指定しません
- 所有者: 所有者がない場合はこのパラメータは使用しません (このパラメータに空の値を入れたままにしないでください)
- AmApiDll: aamapi50.dllファイルは、デフォルトではC:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00xx\binフォルダにあります。ここで、「xx」は、ご使用のAssetCenterインストールの2文字言語コードを表します。パスの記述には / を使用します。 \ は使用しないでください。

その他のパラメータは、接続の詳細に表示されるパラメータと同じです (Windowsクライアントの [ ファイル / 接続の管理 ] メニュー)。

▶ マニュアル『はじめに』、「参考情報」の章、「接続 / データベースへの接続を作成する」セクション。

---

例 <Environment name="AssetCenter.DB.Name" value="[MSSQL;ACDemo50en;it  
am;Hk9pv/o7IA3mIV1/7cz3Aw==;0;c:/tmp;0;AmApiDll='C:/Program Files/HP O  
penView/AssetCenter 5.00 en/bin/aamapi50.dll']" type="java.lang.String" over  
ride="false">

■ AssetCenter.DB.UserLogin

値 AssetCenterデータベースへの接続に使用するログイン名。  
例 <Environment name="AssetCenter.DB.UserLogin" value="Admin" type="java.l  
ang.String" override="false">

■ AssetCenter.DB.UserPwd

値 AssetCenterデータベースへの接続に使用する、ログイン用の暗号化パス  
ワード。

▶ 必要な暗号化パスワードを入手する [ 献 75]

例 パスワードが空白の場合 :  
  
<Environment name="AssetCenter.DB.UserPwd" value="bmkBcCAZLK4=" typ  
e="java.lang.String" override="false">

- 6 AssetCenterWebService.xmlファイルで行った変更を保存します。
- 7 テキストエディタを終了します。
- 8 TomcatのJavaプロパティを入力します。

プロパティ	値
Java Classpath	完全パスを次の行に追加します。 <ul style="list-style-type: none"><li>■ J2SESDKのtools.jar ( デフォルトの格納場所は、J2SESDKインストールフォルダのlibサブフォルダです )</li></ul> パスは同一行に書き、セミコロン「;」で区切ります。
Java Options	acjni50.dllファイルが入っているフォルダへの完全パスを追加します ( デフォルトの場所は、C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00 xx\binフォルダで、「xx」は、ご使用のAssetCenterインストールの2文字言語コードを表します )。 パラメータの例 :  -Djava.library.path=C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00 xx\bin

- 9 ac-constants-50.jarとac-jni-50.jarファイルをコピーします ( デフォルトの場所は、C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00 xx\websvc\libフォルダ )。それをTomcatのshared\libフォルダに貼り付けます。
- 10 Tomcatを起動します。
- 11 正しく導入されたかどうかをテストします。

例えば、次のような方法があります。

- 1 Internet Explorerを起動します。
- 2 次のURLを表示します。

```
http://<AssetCenter Web Serviceサーバ名>:<AssetCenter Web Serviceが使用するポート>/AssetCenterWebService
```



**警告:**

テキストは大文字と小文字が区別されます。

- 3 正しく導入されている場合は、URLのページに次のようなヘッダが表示されます。

```
Database Base: Name ACDemo50en
Engine MSSQL
User itam
AmApiDll 'C:/Program Files/C:/Program Files/HP OpenView/AssetCenter 5.00 e
n/bin/aamapi50.dll'
User: Admin
Version: 5.00 - build <AssetCenter build number>
```



**ヒント:**

ヘッダの後にエラーが表示された場合は、アプリケーションサーバのメモリ設定を再定義してください。

Tomcat 5.0の例： [ Initial memory pool ] と [ Maximum memory pool ] の設定。

### WebSphere Application Server5.1または6.0がアプリケーションサーバの場合

ここでは、AssetCenter Web ServiceをAssetCenter Web Tierとは別にインストールする方法について説明します。

AssetCenter Web ServiceとAssetCenter Web Tierを同時にインストールする方法については、「▶ [AssetCenter Web ServiceとAssetCenter Web Tierを同時にインストールするには \[ 献 90\]](#)」を参照してください。

- 1 C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00 xx\websphereフォルダを開きます。
- 2 AssetCenter-webservice.earファイルを、C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00 xx\websphere\AssetCenter-webservice.ear\_buildフォルダに展開します。
- 3 C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00 xx\websphere\AssetCenter-webservice.ear\_buildフォルダに変更します。
- 4 AssetCenterWebService.warファイルを、C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00 xx\websphere\AssetCenterWebService.war\_buildフォルダに展開します。

- 5 C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00  
xx\websphere\AssetCenterWebService.war\_build\WEB-INF\web.xmlファイルを編集します。
- 6 以下のパラグラフを削除します。

#### 削除するパラグラフ

```
<env-entry>  
<description>AssetCenter Jaas configuration file</description>  
<env-entry-name>acws.jaas.config.location</env-entry-name>  
<env-entry-type>java.lang.String</env-entry-type>  
</env-entry>  
<env-entry>  
<description>Keystore path for Single Sign-On</description>  
<env-entry-name>security.keystorePath</env-entry-name>  
<env-entry-type>java.lang.String</env-entry-type>  
</env-entry>  
<env-entry>  
<description>Single Sign-On keystore user password</description>  
<env-entry-name>security.keystoreUserPassword</env-entry-name>  
<env-entry-type>java.lang.String</env-entry-type>  
</env-entry>  
<env-entry>  
<description>Single Sign-On keystore user alias</description>  
<env-entry-name>security.keystoreUserAlias</env-entry-name>  
<env-entry-type>java.lang.String</env-entry-type>  
</env-entry>
```

- 7 AssetCenter.DB.Nameパラメータを変更します。

値

[<エンジン>;<データソースまたはデータベースサーバ>;<ユーザまたはOracleアカウントまたはSybaseアカウント>;<ユーザ、Oracleアカウント、またはSybaseアカウントに関連付けた暗号化パスワード>;<キャッシュ有効化>;<ローカルキャッシュディレクトリ>;<キャッシュサイズ (KB) >;Owner=<所有者>];AmApiDll=<aamapi50.dllの完全パス>]

条件:

- エンジン：
  - MSSQL
  - Oracle
  - Sybase
  - DB2
- 暗号化されたパスワード: 「▶必要な暗号化パスワードを入手する [ 献75]」
- キャッシュ有効化：
  - 0: キャッシュ無効
  - 1: キャッシュ有効
- キャッシュサイズ (KB) : 単位は指定しません
- 所有者: 存在しない場合、このパラメータを使用します (このパラメータには必ず値を入力してください)
- AmApiDll: aamapi50.dllファイルは、デフォルトではC:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00 xx\binフォルダにあります。パスの記述には / を使用します。 \ は使用しないでください。

その他のパラメータは、接続の詳細に表示されるパラメータと同じです (Windowsクライアントの [ ファイル / 接続の管理 ] メニュー)。

▶マニュアル『はじめに』、「参考情報」の章、「接続 / データベースへの接続を作成する」セクション。

例

```
<env-entry>
<description>AssetCenter Database name</description>
<env-entry-name>AssetCenter.DB.Name</env-entry-name>
<env-entry-value>[MSSQL;ACDemo50en;itam;Hk9pv/o71A3mIV1/7cz3Aw==;0;c:/tmp;0;AmApiDll='C:/Program Files/HP OpenView/AssetCenter 5.00 en/bin/aamapi50.dll']</env-entry-value>
<env-entry-type>java.lang.String</env-entry-type>
</env-entry>
```

## 8 AssetCenter.DB.UserLoginパラメータを編集します。

値

AssetCenterデータベースへの接続に使用するログイン名。

例

```
<env-entry>
<description>AssetCenter UserLogin for WebService impersonation</description>
>
<env-entry-name>AssetCenter.DB.UserLogin</env-entry-name>
<env-entry-value>Admin</env-entry-value>
<env-entry-type>java.lang.String</env-entry-type>
</env-entry>
```

---

## 9 AssetCenter.DB.UserPwdパラメータを編集します。

値

AssetCenterデータベースへの接続に使用する、ログイン用の暗号化パスワード。

▶ 必要な暗号化パスワードを入手する [ 献 75]

例

パスワードが空白の場合：

```
<env-entry>
<description>AssetCenter password for WebService impersonation</description>
>
<env-entry-name>AssetCenter.DB.UserPwd</env-entry-name>
<env-entry-value>bmkBcCAZLK4=</env-entry-value>
<env-entry-type>java.lang.String</env-entry-type>
</env-entry>
```

---

- 10 C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00  
xx\websphere\AssetCenterWebService.war\_buildフォルダを開きます。
- 11 すべてのファイルとフォルダを選択します。
- 12 これらのファイルとフォルダを、C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00  
xx\websphere\AssetCenterWebService.war\_build\AssetCenterWebService.warフ  
ァイルとして圧縮します。
- 13 コピーします。
- 14 それをC:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00  
xx\websphere\AssetCenter-webservice.ear\_buildフォルダに貼り付けます（旧  
ファイルを上書き）。
- 15 C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00  
xx\websphere\AssetCenterWebService.war\_buildフォルダを削除します。
- 16 C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00  
xx\websphere\AssetCenter-webservice.ear\_buildフォルダに変更します。
- 17 すべてのファイルとフォルダを選択します。
- 18 これらのファイルとフォルダを、C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00  
xx\websphere\AssetCenter-webservice.ear\_build\AssetCenter-webservice.earフ  
ァイルとして圧縮します。
- 19 WebSphere Application Serverを起動します。
- 20 Internet Explorerを起動します。
- 21 このURL（<http://127.0.0.1:9060/admin>）を開きます。

- 22 ユーザIDを入力します。
- 23 左のメニューにある [ セキュリティー / JAAS 構成 / アプリケーション・ログイン ] をクリックします。
- 24 [ 新規作成 ] をクリックして、「ACWebServiceLoginContext」という名前の新規別名を作成します。
- 25 [ 追加プロパティ ] セクションの下のテーブルにある [ JAAS ログイン・モジュール ] をクリックします。  
これにより、ACWebServiceLoginContext別名のJAASログインモジュールが表示されます。
- 26 [ 新規作成 ] をクリックして、モジュールクラス名「com.peregrine.ac.auth.ACAPILoginModule」を入力します。
- 27 [ 認証ストラテジー ] が「REQUIRED」であることを確認します。
- 28 [ 適用 ] をクリックします。
- 29 [ 追加プロパティ ] セクションの下に、[ カスタム・プロパティ ] リンクがあります。
- 30 このリンクをクリックします。
- 31 [ 次へ ] をクリックして、以下の値を持つ2つの新規変数を作成します。

変数	値
FunctionalRights	7/WebService/WSDeveloper
ServiceRights	Head

- 32 [ JAAS ログイン・モジュール ] ページを再表示します。
- 33 com.peregrine.shared.security.jaas.PkiLoginModuleという名前の新規モジュールを作成します。  
[ 認証ストラテジー ] が「OPTIONAL」であることを確認します。  
カスタムプロパティを追加する必要はありません。
- 34 [ JAAS ログイン・モジュール ] ページに戻ると、以下のテーブルに似たテーブルが表示されるはずです。

モジュールクラス名	認証ストラテジー	モジュールの順序	プロパティ	値
com.peregrine.shared.security.jaas.PkiLoginModule	OPTIONAL	1		
			delegate	com.peregrine.shared.security.jaas.PkiLoginModule
com.peregrine.ac.auth.ACAPILoginModule	REQUIRED	2		
			FunctionalRights	7/WebService/WSDeveloper
			ServiceRights	Head

モジュールクラス名	認証ストラ テジー	モ ジュー ルの 順序	プロパティ	値
			delegate	comperegineacauthACAPILoginModule

 **警告:**

モジュールが正しい順にあることを確認します。  
正しくない場合は、修正します。

 **注意:**

接続別名: ACWebServiceLoginContext。

- 35 WebSphere Application Serverに固有のこのような設定手順は、AssetCenter-webservice.earファイルのインポートを準備する前に行う必要があります。
- 36 左のメニューで [ アプリケーション / 新規アプリケーションのインストール ] をクリックします。
- 37 次のフィールドに入力します。

パラメータ	値
ローカル・パス	AssetCenter-webservice.earファイルへのパスです。

- 38 インストールを開始します。
- 39 すべての機能が正しく動作している場合、以下の行をこの順番で含むテーブルのあるページが表示されるはずですが。
  - オーバーライド
  - 仮想ホスト
  - 特定バインディング・ファイル
- 40 [ 次へ ] をクリックします。
- 41 WebSphere Application Serverにより、WebSphere Application Server.policyファイルが表示されます。
- 42 [ 続行 ] をクリックします。
- 43 [ 次へ ] をクリックして、次の4つの [ 新規アプリケーションのインストール ] 画面に進みます。
- 44 該当するリンクをクリックして、変更を保存します。
- 45 左のメニューで [ アプリケーション / エンタープライズ・アプリケーション ] をクリックします。
- 46 アプリケーションのリストから、 [ **AssetCenterWebService** ] を選択します。

- 47 [アプリケーション・バイナリー] フィールドの値をコピーします。  
この値は、acjni50.dllファイルへのパスに対応し、\$(APP\_INSTALL\_ROOT)などのWebSphere変数を含みます。
- 48 ナビゲーションパネルで、[サーバ/アプリケーションサーバ] を選択します。
- 49 右側のパネルにあるサーバを選択します。
- 50 中央のページで、テーブルの中段にある [プロセス定義] オプションを選択します。
- 51 次のページで、(テーブルの最初の行) [Java 仮想マシン] をクリックします。
- 52 新規ページで、以下の要領で [一般 JVM 引数] フィールドに入力します。

値	acjni50.dllファイルへのスペースを含まないパス
例	-Djava.library.path=\$(APP_INSTALL_ROOT)
変更の保存	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 [適用] をクリックします。 これによりページが再読み込みされます。</li> <li>2 ページ上部にある [メッセージ] ボックスにある [保管] をクリックします。</li> <li>3 次のページで [保管] をクリックします。</li> </ol>

- 53 WebSphere Application Serverを起動します ( [スタート/プログラム/IBM **WebSphere** / サーバーの停止] メニュー )。
- 54 WebSphere Application Serverを起動します ( [スタート/プログラム/IBM **WebSphere** / サーバーの始動] メニュー )。
- 55 正しく導入されたかどうかをテストします。  
例えば、次のような方法があります。
  - 1 Internet Explorerを起動します。
  - 2 次のURLを表示します。

```
http://<AssetCenter Web Serviceサーバ名>:<AssetCenter Web Serviceポート>/AssetCenterWebService
```



テキストは大文字と小文字が区別されます。

- 3 正しく導入されている場合は、URLのページに次のようなヘッダが表示されます。

```
Database Base: Name ACDemo50en
Engine MSSQL
User itam
AmApiDll 'C:/Program Files/C:/Program Files/HP OpenView/AssetCenter 5.00 e
```

```
n/bin/aamapi50.dll'  
User: Admin  
Version: 5.00 - build <AssetCenter build number>
```

 **ヒント:**

ヘッダの後にエラーが表示された場合は、アプリケーションサーバのメモリ設定を再定義してください。

Tomcat 5.0の例： [ Initial memory pool ] と [ Maximum memory pool ] の設定。

## AssetCenter Web Tierのインストール

### Tomcatをアプリケーションサーバとして使用する場合

- 1 Tomcatを停止します。
- 2 AssetCenter.xmlファイルをコピーします（デフォルトの場所は、C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00 xx\webclient\configフォルダ）。  
Tomcatのconf\catalina\localhostフォルダに貼り付けます。
- 3 テキストエディタを起動します。
- 4 Tomcatのconf\catalina\localhostフォルダで、AssetCenter.xmlファイルを開きます。
- 5 次のエントリを入力します。
  - docBase

入力値                      AssetCenter.warファイルの完全パス（デフォルトの場所は、C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00 xx\webclientフォルダ）

**注意:**

AssetCenter.warファイルにはJ2EE互換Webアプリケーションが含まれます。

例                              docBase="C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00 xx\webclient\AssetCenter.war"

- AssetCenter.WS.EndPoint

入力値                      <AssetCenter Web Service URL>/services/

例                              <Environment name="AssetCenter.WS.EndPoint" value="http://localhost:8080/AssetCenterWebService/services/" type="java.lang.String" override="false"/>

- 6 必要に応じて、次のエントリを追加します。

- AssetCenter.WS.Version  
このエントリを使用すると、AssetCenter Web Serviceに対して、現行バージョン以外のWebサービスのバージョンを使用するよう強制できます。

入力タイプ	Environment
入力値	AssetCenterが使用するAssetCenterデータベース（構造とコンテンツ）の識別子。 HEAD値は、AssetCenterWebTierからクエリが送信されたときのデータベースのステータスを表します。
例	<Environment name="AssetCenter.WS.Version" value="Head" type="java.lang.String" override="false"/>

- 7 AssetCenter.xmlファイルで行った変更を保存します。
- 8 テキストエディタを終了します。
- 9 Tomcatを起動します。
- 10 正しく導入されたかどうかをテストします。  
例えば、次のような方法があります。
  - 1 Internet Explorerを起動します。
  - 2 次のURLを表示します。

```
http://<AssetCenter Web Serviceサーバ名>:<AssetCenter Web Serviceポート>/AssetCenter
```



**警告:**

テキストは大文字と小文字が区別されます。

- 3 正しく導入されている場合は、上記のURLで接続ページが表示されます。

### WebSphere Application Server5.1または6.0がアプリケーションサーバの場合

ここでは、AssetCenter Web TierをAssetCenter Web Serviceとは別にインストールする方法について説明します。

AssetCenter Web ServiceとAssetCenter Web Tierを同時にインストールする方法については、「▶ AssetCenter Web ServiceとAssetCenter Web Tierを同時にインストールするには [ 献 90]」を参照してください。

- 1 C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00 xx\websphereフォルダを開きます。
- 2 AssetCenter-webtier.earファイルを、C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00 xx\websphere\AssetCenter-webtier.ear\_buildフォルダに展開します。
- 3 C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00 xx\websphere\AssetCenter-webtier.ear\_buildフォルダを開きます。

- 4 AssetCenter.warファイルを、C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00xx\websphere\AssetCenter.war\_buildフォルダに展開します。
- 5 C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00xx\websphere\AssetCenter.war\_build\WEB-INF\web.xmlファイルを編集します。
- 6 AssetCenter.WS.EndPointパラメータを変更します。

例  
例

---

```
<AssetCenter Web Service> URL
<env-entry>
<description>Web service url</description>
<env-entry-name>AssetCenter.WS.EndPoint</env-entry-name>
<env-entry-value>http://localhost:9080/AssetCenterWebService/</env-entry-value>
<env-entry-type>java.lang.String</env-entry-type>
</env-entry>
```

---

- 7 C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00xx\websphere\AssetCenter.war\_buildフォルダを開きます。
- 8 すべてのファイルとフォルダを選択します。
- 9 これらのファイルとフォルダを、C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00xx\websphere\AssetCenter.war\_build\AssetCenter.warファイルとして圧縮します。
- 10 ファイルをコピーします。
- 11 それをC:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00xx\websphere\AssetCenter-webtier.ear\_buildフォルダに貼り付けます（旧ファイルを上書き）。
- 12 C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00xx\websphere\AssetCenter.war\_buildフォルダを削除します。
- 13 C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00xx\websphere\AssetCenter-webtier.ear\_buildフォルダを開きます。
- 14 すべてのファイルとフォルダを選択します。
- 15 これらのファイルとフォルダを、C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00xx\websphere\AssetCenter-webtier.ear\_build\AssetCenter-webtier.earファイルとして圧縮します。
- 16 管理コンソールを開きます。
- 17 [ アプリケーション / 新規アプリケーションのインストール ] をクリックします。  
次のデータを入力します。

パラメータ  
パスの指定

値

AssetCenter-webtier.earファイルのパスを選択します。

---

パラメータ	値
例	C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00 xx\websphere\AssetCenter-webtier.ear_build

- 18 すべての機能が正しく動作している場合、以下の行をこの順番で含むテーブルのあるページが表示されるはずです。
  - オーバーライド
  - 仮想ホスト
  - 特定バインディング・ファイル
 [次へ] をクリックします。
- 19 WebSphere Application Serverにより、WebSphere Application Server.policyファイルが表示されます。
- 20 [続行] をクリックします。
- 21 [次へ] をクリックして、次の4つの [新規アプリケーションのインストール] 画面に進みます。
- 22 左のナビゲーションバーにある [アプリケーション / エンタープライズ・アプリケーション] をクリックします。
- 23 [AssetCenter\_war] をクリックします。
- 24 最後のテーブル [関連項目] から、[Web モジュール] を選択します。
- 25 AssetCenter.ear を選択します。
- 26 [一般プロパティ] テーブルで、[クラス・ローダー・モード] パラメータに [親が最後] を選択します。
- 27 左のメニューにある [セキュリティ / JAAS 構成 / アプリケーション・ログイン] をクリックします。
- 28 [新規作成] をクリックして、「AssetCenterWeb」という名前の新規別名を作成します。[適用] をクリックします。
- 29 [JAAS ログイン・モジュール] をクリックし、[新規作成] ボタンをクリックします。
- 30 com.peregrine.ac.auth.ACAPILoginModuleを作成します。  
[認証ストラテジー] が「REQUIRED」であることを確認します。[適用] をクリックします。
- 31 [カスタム・プロパティ] をクリックします。
- 32 [アプリケーション・ログイン構成 > AssetCenterWeb > JAAS ログイン・モジュール > com.peregrine.ac.auth.ACWSLoginModule >] という新しい画面で、自動的に作成される「delegate」により、以下の4つのカスタムプロパティが作成されます。

名前	値
AssetCenter.WS.AuthService	Core
FunctionalRights	True
ProfileRight	True

名前	値
Delegate	com.peregrine.ac.auth.ACWSLoginModule
AssetCenter.WS.Version	R50

- 33 [ JAAS ログイン・モジュール ] ページに戻ります。
- 34 [ 新規作成 ] をクリックして、com.peregrine.shared.security.jaas.PkiLoginModule という2番目のモジュールを作成します。  
 [ 認証ストラテジー ] が「OPTIONAL」であることを確認します。[ 適用 ] をクリックします。  
 カスタムプロパティを追加する必要はありません。
- 35 [ JAAS ログイン・モジュール ] 画面に戻り、以下の情報を含むテーブルを確認します。

モジュールクラス名	認証ストラテジー	モジュールの順序	プロパティ	値
com.peregrine.shared.security.jaas.PkiLoginModule	OPTIONAL	1		
			delegate	com.peregrine.shared.security.jaas.PkiLoginModule
com.peregrine.ac.auth.ACWSLoginModule	REQUIRED	2		
			FunctionalRights	True
			ProfileRight	True
			delegate	com.peregrine.ac.auth.ACWSLoginModule
			AssetCenter.WS.Version	R50
			AssetCenter.WS.Core	Core

- 36 該当するリンクをクリックして、変更を保存します。
- 37 WebSphere Application Serverを起動します ( [ スタート / プログラム / **IBM WebSphere** / サーバーの停止 ] メニュー ) 。
- 38 WebSphere Application Serverを起動します ( [ スタート / プログラム / **IBM WebSphere** / サーバーの始動 ] メニュー ) 。
- 39 正しく導入されたかどうかをテストします。  
 例えば、次のような方法があります。
- 1 Internet Explorerを起動します。
  - 2 次のURLを表示します。

```
http://<AssetCenter Web Service サーバ名>:<AssetCenter Web Service ポート>/AssetCenter
```



警告:  
 テキストは大文字と小文字が区別されます。

- 3 正しく導入されている場合は、上記のURLで接続ページが表示されます。

## AssetCenter Web ServiceとAssetCenter Web Tierを同時にインストールするには

### WebSphere Application Server5.1または6.0がアプリケーションサーバの場合

以下では、AssetCenter Web TierとAssetCenter Web Serviceを個別にインストールする方法について説明します。

- WebSphere Application Server5.1または6.0がアプリケーションサーバの場合 [ 献 78]
- WebSphere Application Server5.1または6.0がアプリケーションサーバの場合 [ 献 86]

AssetCenter Web TierとAssetCenter Web Serviceを同時にインストールすることもできます。

これには、C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00  
xx\websphere\AssetCenter.earファイルを使用して、個別のインストールとしてタスクを実行します。

---

## Internet Explorerを使ったAssetCenterへのアクセス

### Internet Explorerの設定

#### セキュリティの設定

AssetCenter Webクライアントが正しく実行されるように、セキュリティの設定を定義する必要があります。

この設定変更でWebクライアントは次のことが許されるようになります。

- JavaScriptの実行
- ポップアップウィンドウの表示
- Cookieを受け取る

セキュリティ設定は、以下のようにいくつかのレベルで定義します。

- IT部署の管理者によるグローバル設定
- 各ユーザにローカルなInternet Explorerセキュリティ設定による、ローカル設定

Internet Explorer6.0の例： [ ツール / インターネットオプション ] メニュー、 [ セキュリティ ] タブ。

会社の中でAssetCenter Webクライアントが置かれている所のゾーン（インターネット、イントラネット、信頼済みサイト）のセキュリティ設定を定義する必要があります。

---

### ヒント:

信頼済みサイトのリストにWebクライアントのURLを追加し、Webクライアントに合わせたセキュリティレベルをこれらのサイトに設定すると便利です。

---

### ポップアップウィンドウ

ポップアップブロッカーは無効に設定してください。

Internet Explorer 6.0の例：[ ツール / ポップアップブロック / ポップアップブロックを無効にする ] メニュー。

### Webクライアントの起動

Webクライアントを使ってAssetCenterにアクセスするには、次の手順に従います。

- 1 Internet Explorerを起動します。
- 2 次のシンタックスで、URLを入力します。

```
http://<AssetCenter Web Tierサーバ名>:<AssetCenter Web Tierが使用するポート>/AssetCenter
```

- 3 次のフィールドに入力します。

フィールド	値
Login	AssetCenterデータベースへの接続に使用するログイン
Password	ログインに関連付けられたパスワード

---

## AssetCenter Webの最適化

### 警告:

このセクションは、これからお使いになるアプリケーションとWebサーバのマニュアルの代替となるものではありません。

上記のマニュアルとご自身の知識と経験を組み合わせることで、アプリケーションサーバとWebサーバを最適な方法でインストール、設定することが出来るようになります。

このセクションでは、いくつかのヒントを提供しますが、完全な一覧ではありませんのでご注意ください。

---

## Tomcatのログファイル

Tomcatで非常に詳細なログファイルが生成されるように設定すると、数千もの無意味な行がログ記録されてしまいます。

AssetCenter Webのパフォーマンスを低下させるだけです。

この問題を回避するためのTomcatの設定例：

- 1 新規設定ファイルを作成して、「log4j.properties」（場所はTomcatのcommon\classesフォルダ）と置換します。  
例：log4jnew.properties
- 2 AssetCenter.xmlのlog.propertiesエントリを変更して、新しいlog4jnew.propertiesファイルを参照するようにします。

▶ Tomcatをアプリケーションサーバとして使用する場合 [ 献 85].

- 3 新しいファイル、log4jnew.propertiesを開きます。
- 4 致命的エラーのみログを作成する設定を入力します。

例：

```
log4j.rootLogger=FATAL, A1
log4j.appender.A1=org.apache.log4j.ConsoleAppender
log4j.appender.A1.layout=org.apache.log4j.PatternLayout
log4j.appender.A1.layout.ConversionPattern=%d{ABSOLUTE} %-5p %c{1} : %m%n
log4j.logger.org.apache=FATAL
```

▶ Apache log4jマニュアル

## Tomcatによって生成されるページの表示にかかる時間

Internet ExplorerでWebクライアントのページを表示する場合、初めてアクセスするページの表示にしばらく時間がかかることがあります。

これは次の理由によるものです。

Tomcatのworkフォルダ内で記述されていないページをユーザが要求すると（例えば場所のリストなど）、AssetCenter Web Tierは.jspファイルと、この.jspファイルからコンパイルされる.classファイルを生成します。表示するページはこれらのファイルによって記述されます。

この動作にはしばらく時間がかかります。

Tomcatのworkフォルダ内ですでに記述されているページをユーザが要求した場合は、対応する.jspファイルと.classファイルをAssetCenter Web Tierが再度作成するのは、AssetCenterデータベースの構造内でページの記述が変更されている場合だけです。

ページが変更されていなければ、Internet Explorerですぐに表示されます。

Tomcatは設定によって、シャットダウン時に.jspファイルと.classファイルがworkフォルダから削除されるようにすることができます。

---

 **重要項目:**

ページの表示速度を高めるために、Tomcatのシャットダウン時にworkフォルダ内の.jspファイルと.classファイルをTomcatが削除しないよう、Tomcatを設定することを推奨します。

---

---

## AssetCenter Webのアンインストール

### Tomcatをアプリケーションサーバとして使用する場合

AssetCenter Web ServiceまたはAssetCenter Web Tierが導入されているTomcatの各インスタンスに対して：

- 1 導入されたAssetCenter Web ServiceまたはAssetCenter Web Tierを削除します。
- 2 Tomcatを停止します。

---

 **警告:**

Tomcatを停止しなければ、AssetCenter Web ServiceとAssetCenter Web Tierのいくつかのファイルを削除することができません。

これはTomcatの既知のエラーです。

▶ <http://tomcat.apache.org/faq/windows.html#lock>

- 
- 3 Tomcatのworkおよびwebappsフォルダで、AssetCenterおよびAssetCenterWebServiceフォルダを手動で削除します。



## 8 パフォーマンスの問題

### 概要

AssetCenterのパフォーマンスは以下のような様々な要因に左右されます。

- DBMS :
  - ハードウェア
  - 設定  
この作業は重要ですが、非常に扱いにくいものであるため、実行するにはデータベース管理者のスキルが必要になります。DBMSのパラメータ設定によってはAssetCenterの性能が倍増することもまれではありません。特に、データベースサーバに割り当てるRAM容量に注意を払うことが大切です。
  - DBMSの能力（AssetCenterとの運用性）とミドルウェアの能力（複数の行を1つのネットワークパケットとして取得するなどの高度な機能のサポート）
- サーバのハードウェアパフォーマンス：プロセッサ速度、RAM、ディスクのサブシステム（ディスク、コントローラボード、これらのシステム管理、プロセッサ数など）、テーブルとインデックスで別のストレージデバイスを使用。
- クライアントのハードウェアパフォーマンス：プロセッサ速度、RAM、グラフィックパフォーマンス
- 帯域幅とネットワークの遅延時間
- データベースに格納されているレコード数

AssetCenterのパフォーマンスを最適化する方法については、マニュアル『[Tuning（最適化）](#)』を参照してください。

## 低速ネットワーク、高速ネットワークと広域ネットワーク（WAN）の調整

詳細については、マニュアル『管理』の「WANネットワークにおけるAssetCenterの最適化」の章を参照してください。

### 外部アプリケーションを使ってAssetCenterデータベースのレコードをロックする

外部ツールによっては、レコードを参照している最中でもレコードをロックすることがあります。

これは、AssetCenterの性能に悪影響を及ぼします。レコードは、なるべくロックしないようにしてください。

例えば、Sybase SQL ServerやMicrosoft SQL Serverでは、ダーティリード（dirty read）でアクセスする方が適しています。

# インデックス

- .msi (ファイル), 42
- アクセス制限, 31
- アップグレード
  - コンピュータのアップグレード, 23
  - バージョン4.2.x、4.3.x、または4.4.x  
手順, 27
- アンインストール
  - AssetCenterクライアント
    - 自動アンインストール, 47
    - 手動アンインストール - Windows, 41
  - アンインストール - Windowsでの自動化, 42
  - アンチウイルス - 競合, 37
  - インストール
    - Windows, 37-41
      - 事前の作業, 37
      - 手動インストール, 40
    - 自動化 - Windows, 42
  - カウンタ, 25
  - キャッシュ, 32
  - クライアント/サーバ-Windowsへのインストール, 40
  - コンピュータのアップグレード
    - 準備, 23
  - サポートされるDBMS, 17
  - サポートされるオペレーティングシステム
    - クライアント, 15
    - データベースサーバ, 15
  - サポートされる動作環境, 15
  - スキャン, 55
  - ストアドプロシージャ - DB2, 49
  - ディスク容量
    - 最小限の動作環境 - Windows, 16
    - 推奨される動作環境 - Windows, 16
  - デモ用データベース
    - インストール - Windows, 55
    - パスワード, 55
    - ログイン, 55
  - データベース
    - コピー, 26
      - DBMSツール, 26
      - 従来のバックアップ - 問題点, 26
    - 最終処理, 29
    - 手動による調整, 25
    - 整合性 - 検証, 28, 24
    - 接続不可, 54
    - 内容を変更する, 10
    - 保全性, 10
  - データベースの修復 (メニュー), 25, 24
  - データベースを更新 (メニュー), 27
  - データベース構造 - 変更, 10

- データベース保水性, 10
- ネットワーク - パフォーマンス, 96
- パスワード - デモ用データベース, 55
- パフォーマンス, 95
- フィールドのヘルプ, 30
- メッセージ, 51
- メッセージシステム (参考 メッセージ)
- メモリ
  - 最小限の動作環境 - Windows, 16
  - 推奨される動作環境 - Windows, 16
- ユーザプロファイル, 31
- ユーザ権限, 31
- ユーザ (フィールド), 27
- レコードの整合性のチェック (オプション), 29, 25, 24
- レコード - ロック, 96
- レポート (参考 Crystal Reports)
- ログイン - デモ用データベース, 55
- ワークフロー (モジュール), 26
- 解析のみ, 29
- 開く (メニュー), 25, 24
- 既存のデータベースを開く (メニュー), 27
- 最小限の動作環境 - Windows, 16
- 周辺プログラムの統合, 14
- 修復 (オプション), 25, 24
- 所有者 (フィールド), 27
- 整合性 - 検証, 28
- 接続, 33
- 設定
  - Windows, 49-55
- 調達 (モジュール), 26
- 変換速度, 23

## A

- am.ini, 50
- am50.db, 55
- amdb.ini, 40
- AssetCenter
  - コンポーネント (参考 AssetCenterのパッケージ)
  - モジュール (参考 AssetCenterモジュール)
- AssetCenter.msi, 42
- AssetCenter Database Administrator
  - データベース整合性 - 検証, 28, 24

- AssetCenter Server, 32
  - Connect-It - 統合, 52
  - サービスとしての実行, 52
  - データベースに接続する
    - Windows, 54
  - はじめに, 52
  - 実装
    - Windows, 52
  - 設定
    - Windows, 52
- AssetCenter Web, 33
- AssetCenterクライアント
  - 言語, 40
  - 高速インストール - Windows, 40
  - 自動アンインストール - Windows, 47
- AssetCenterコンポーネント, 13
- AssetCenterの周辺プログラム, 14
- AssetCenterプログラム - 更新手順, 32
- AssetCenterモジュール, 14
- autorun.exe, 40

## C

- cfg (ファイル)
  - 一覧, 57
- config (フォルダ), 30
- Connect-It, 34
  - AssetCenter Server - 統合, 52
  - AssetCenter - 統合, 54
- Connect-Itのシナリオ, 34
- CPU
  - 最小限の動作環境 - Windows, 16
  - 推奨される動作環境 - Windows, 16
- Crystal Reports
  - AssetCenterとの統合, 54
  - Windowsへのインストール, 38
- Crystal Reports ランタイム - Windowsへのインストール, 38

## D

- Dirty read, 96

## G

- gbbase.xml, 30

Get-Answers, 55  
Get-It, 33  
Get-Resources, 34

## I

ini (ファイル)  
一覧, 57  
変更, 59

## M

MAPI (参考メッセージ)  
MSDE, 38  
Windows 2000、XP、Server 2003, 39  
サービスを開始する, 39

## N

NTユーザ, 54

## O

Oracle, 37  
Oracle DLL - バージョン, 50  
Oracleクライアント層 - Windowsへのイン  
ストール, 37  
Orca, 42

## S

sdu.log, 28  
SMTP (参考メッセージ)  
sr\_cpath.bat, 50

## U

up\_GetCounterVal (ストアドプロシージャ), 25  
up\_GetCounterVal (ストアドプロシージャ),  
29  
upgrade.lst, 34

## V

VIM (参考メッセージ)

## W

Windowsへのインストール, 38

